HYDROTECT

ハイドロセラ・ウォール

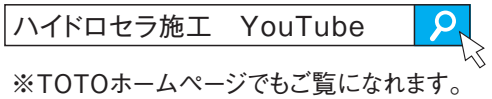
HYDROCERA WALL

クイック　クォリティ

Q&Q

設計・施工マニュアル

下地の種類によっては施工前に下地への補強が必要となります。
事前に本マニュアルを必ずご確認ください。



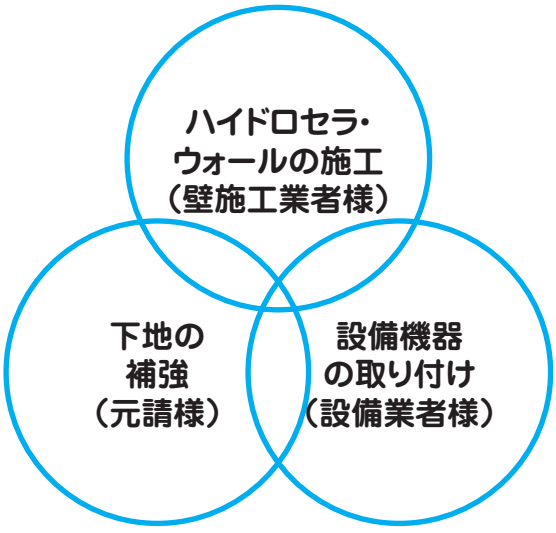
※TOTOホームページでもご覧になれます。

TOTO

はじめに

ハイドロセラ・ウォールは陶磁器質タイル同等の割れ物です。
ハイドロセラ・ウォールに設備機器が取り付く場合は、事前に各設備機器に応じた下地の補強と取り付け時の工夫が必要ですのでご注意ください。

このマニュアルを十分にご確認いただき、適切な施工をお願いします。



この3つが重要!

目次

■商品概要 P.2〜3

■設計・施工時の留意点 P.4〜9
- お守りいただきたい事柄 P.4
- 推奨下地 P.5
- 設備機器が取り付く下地の補強方法 P.6〜9

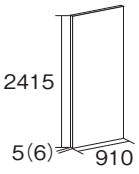
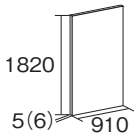
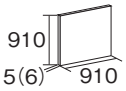
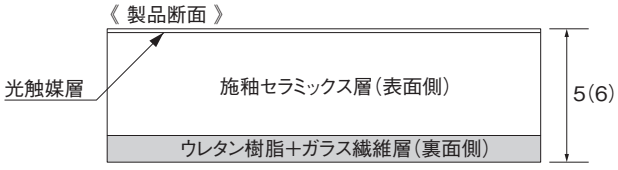
■施工手順 P.10〜20
- 施工の流れ P.10
- 事前準備 P.11
- 運搬・搬入 P.12
- 割付け・墨出し P.13
- 切断 P.14〜16
- 加工 P.17
- 接着 P.18〜20

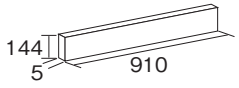
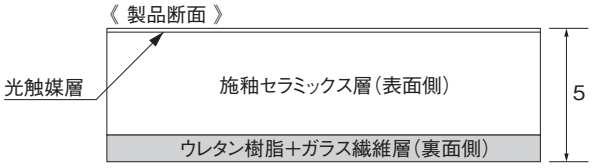
■設備機器の取り付け P.21〜28
- 施工後の破損を防ぐために P.21
- 縁切り位置の詳細図 P.22
- 各設備機器の取り付け方 P.23〜28

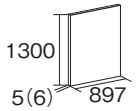
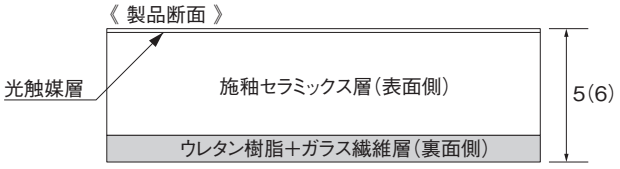
■納まり例 P.29〜34

商品概要

大型セラミックパネル　ハイドロセラ・ウォール

形状	3×8サイズ	3×6サイズ	3×3サイズ
			
			
品番	AA240#～	AA180#～	AA090#～
実寸法（mm）	910×2415	910×1820	910×910
目地共寸法（mm）	913×2418	913×1823	913×913
厚さ（mm）	フラット面状:5、特殊面状:6	フラット面状:5、特殊面状:6	フラット面状:5、特殊面状:6
必要数	0.46枚/m²	0.60枚/m²	1.21枚/m²
重量	フラット面状:20kg/枚、特殊面状:22.5kg/枚	フラット面状:15kg/枚、特殊面状:17kg/枚	フラット面状:8kg/枚、特殊面状:9kg/枚

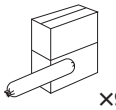
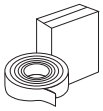
形状	ボーダーサイズ
	
	
品番	AA015#～
実寸法（mm）	144×910
目地共寸法（mm）	147×913
厚さ（mm）	5
必要数	—
重量	1.2kg/枚

形状	在来施工小便器ライニング前板用
	
	
品番	AGH100#～
実寸法（mm）	897×1300
推奨目地幅（mm）	3
厚さ（mm）	フラット面状:5、特殊面状:6
入数	1
重量（kg/ケース）	フラット面状:14kg、特殊面状:15kg

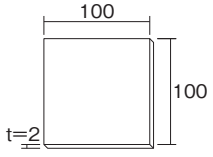
※シリーズ、形状によっては受注生産となります。

商品概要

施工関連部材

	専用接着剤 (低ホルム対策品:F☆☆☆☆)	専用両面テープ
形状	 ×9袋	 ×10巻
品番	AY30N	AY50R1
サイズ容量	2kg/袋	10m/巻(25mm幅)
入数	9袋/ケース	10巻/ケース
重量	18kg/ケース	1.5kg/ケース
備考	主成分:変成シリコーン 使用量目安:1袋/m² ※ケース単位での発注となります。	主成分:発泡ポリマー支持体+アクリル系粘着層 使用量目安:0.25巻/m² ※ケース単位での発注となります。

	専用施工キット (低ホルム対策品:F☆☆☆☆)		
形状	 ×3 ×1 5mmクシ目コテ1枚付属	 ×4 ×1 5mmクシ目コテ1枚付属	 ×5 ×2 5mmクシ目コテ1枚付属
品番	AY100RR	AY102	AY103
サイズ容量	接着剤:2kg/両面テープ:10m(25mm幅)	接着剤:2kg/両面テープ:10m(25mm幅)	接着剤:2kg/両面テープ:10m(25mm幅)
入数	接着剤:3袋/両面テープ:1巻	接着剤:4袋/両面テープ:1巻	接着剤:5袋/両面テープ:2巻
重量	6.2kg/ケース	8.5kg/ケース	10.5kg/ケース
備考	使用量目安:3×6サイズ2枚分/ケース ※ケース単位での発注となります。	使用量目安:3×6サイズ2.5枚分/ケース ※ケース単位での発注となります。	使用量目安:3×6サイズ3枚分/ケース ※ケース単位での発注となります。

	手すり取付プレート
形状(mm)	
品番	AD312
カラー	透明
サイズ容量(mm)	100×100×2
入数	1枚
重量	0.03kg/枚

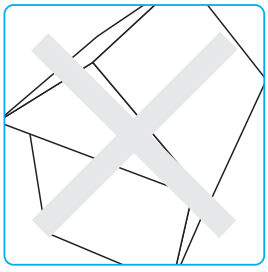
設計・施工時の留意点　お守りいただきたい事柄

⚠注意事項

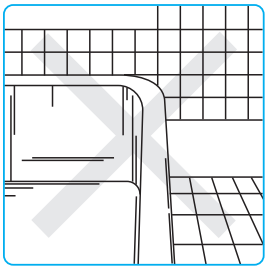
- ハイドロセラ・ウォールは**陶磁器質タイル同等の割れ物**ですので取扱にご注意ください。
- 下地の**不陸**は**2mm/m以下**にしてください。
- 下地ボードは間柱間隔を455mm以下にした下地に固定してください。
- 突きつけ施工はできません。必ず**3〜5mmの目地**をおとりください。
- 接着はハイドロセラ・ウォールと下地に隙間が出来ないように**全面接着**が必要です。
- 目地部から100mm以下の場所への設備取付けはできません。
- 設備機器が取付く壁にハイドロセラ・ウォールを施工する場合、あらかじめ設備機器の種類、取付位置、取付方法の確認が必要です。また、各設備機器に応じた下地補強が必要です。
- **大型の建材のため建築計画段階から搬入経路の確認と確保が必要です。**
- ハイドロセラ・ウォールは**不燃材料です。防耐火構造ではありません**、それらの条件を必要とする場合は下地で処理を行ってください。
- 運搬・作業時には滑り止めの手袋を着用するとともに、加工時に粉じんが発生するため、保護マスク・保護メガネを着用してください。また、集塵機を使用し、換気を良くして作業を行ってください。もし、粉じんが目・鼻・口に入った場合は、速やかに水で十分洗い流してください。なお、異常を感じたらただちに医師の手当てを受けてください。

施工できない場所

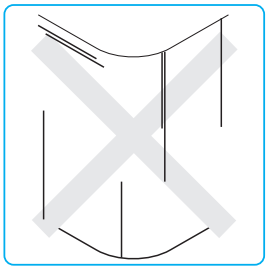
外壁



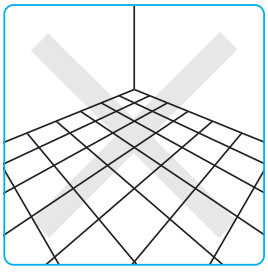
浴槽内・エプロン部



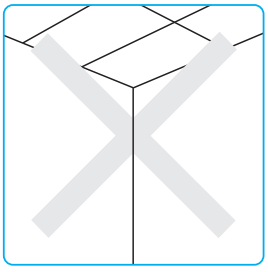
R面



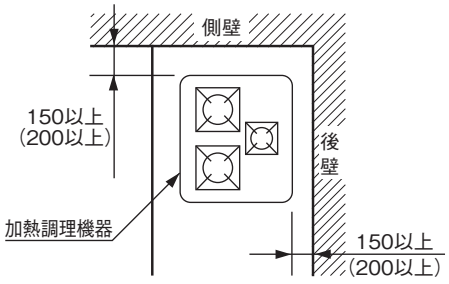
床面



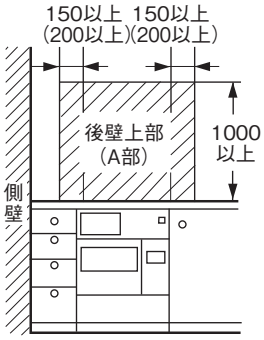
天井部



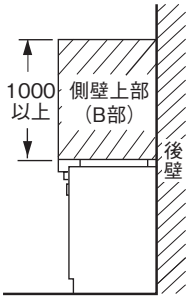
防火構造を必要とする場合



《加熱調理機器部平面図》



《後壁仕上げ範囲》



《側壁仕上げ範囲》

※(　)内は業務用加熱調理機器の場合の距離を示します。

家庭用加熱調理機器と可燃物が150mm以上離せない場合、上図の後壁上部(A部)・側壁上部(B部)を建築基準法に定める防火構造以上の性能を有する壁にしてください。

設計・施工時の留意点　推奨下地

推奨下地

合板（12mm以上）
石膏ボード（12mm以上）
ケイカル板（12mm以上）
フレキ板（6mm以上）

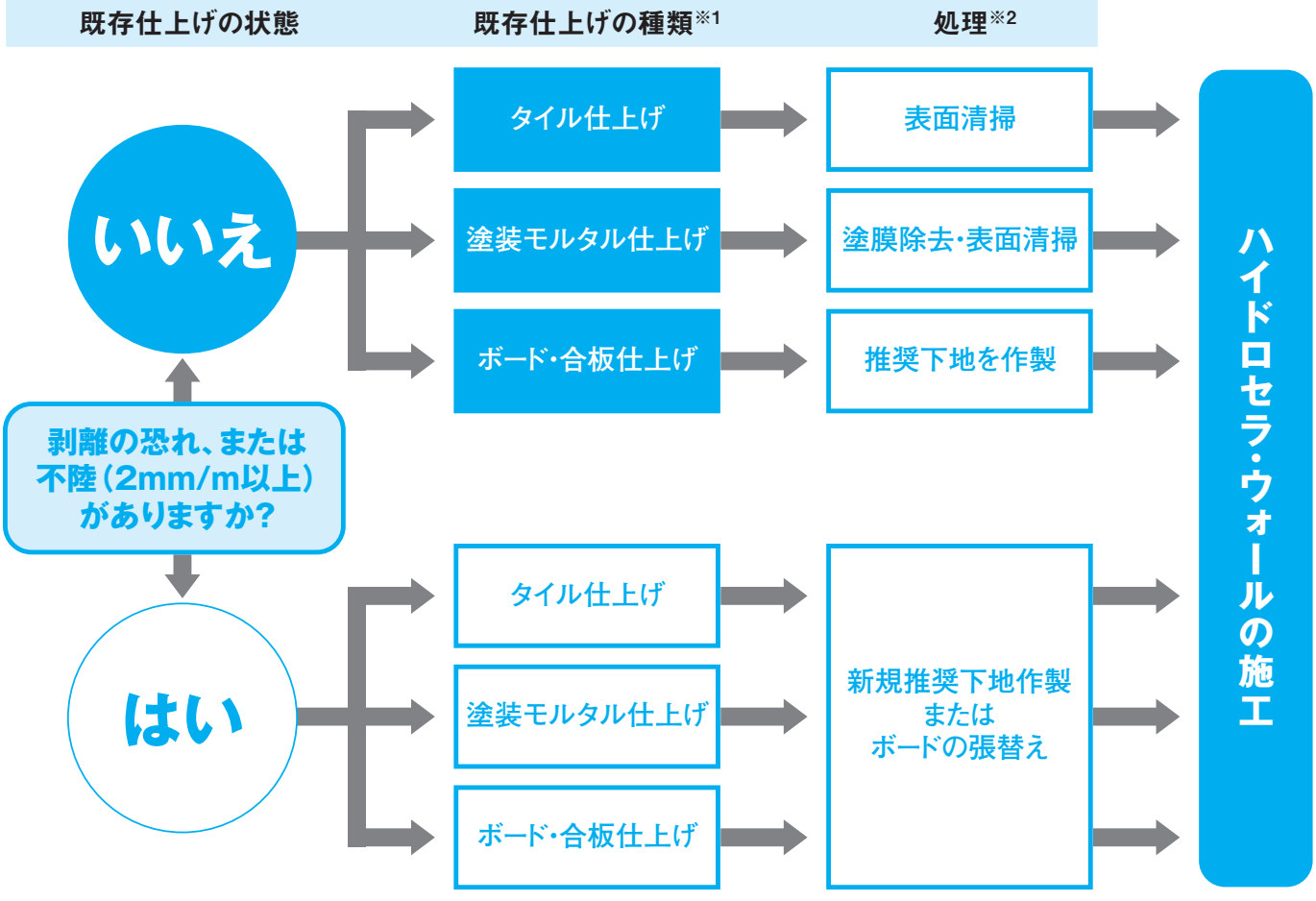
ALC（モルタル金コテ仕上げ）
コンクリート（モルタル金コテ仕上げ）
ラス下地（モルタル金コテ仕上げ）

重要!
設備機器が取り付く場合は、
所定の下地補強が必要です。
詳しくは、P.6以降をご確認ください。

※P.6～9の参考図は特定の商品での下地補強方法です。実際には、施工する商品の施工説明書から固定位置を算出し、下地補強位置を検討してください。

※上記以外の下地には施工できません。
※内装壁以外の部位には使用できません。
※全ての部位において、不陸は2mm/m以下にしてください。
※下地がケイカル板の場合には、プライマー処理を施してください。（推奨:セメダイン MP1000）
※ハイフレックスは吸水調整材です。プライマーとしては使用できません。
※湿気を帯びた下地には施工できません。

リモデルの場合



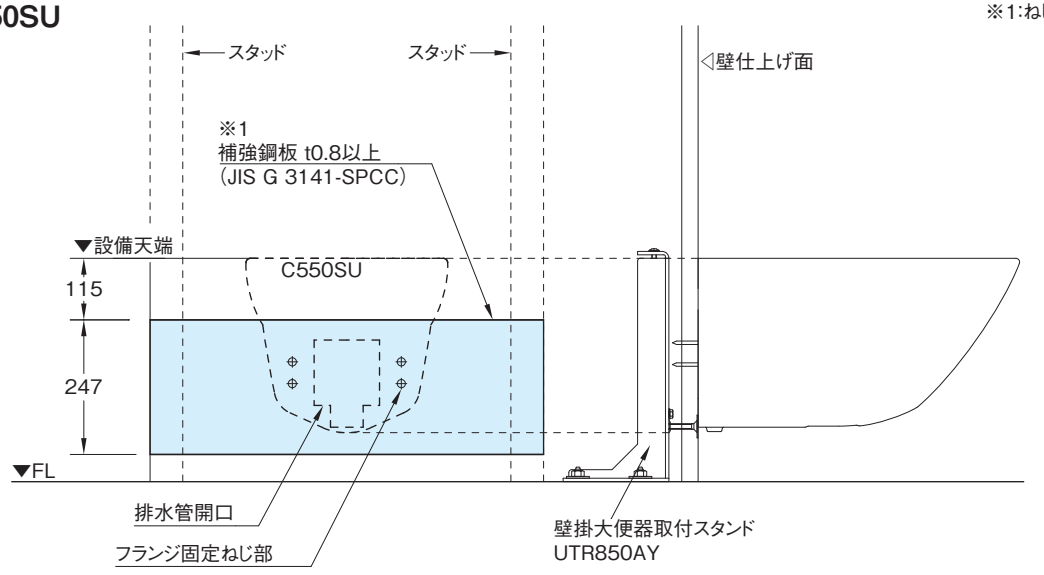
※1　下地が推奨下地以外の場合は、下地を作り直してください。
※2　設備機器が取り付く場合は、下地によっては補強が必要となります。

設計・施工時の留意点　設備機器が取り付く下地の補強方法

壁掛大便器が取り付く場合

参考図:C550SU

※1:ねじの抜け防止用。



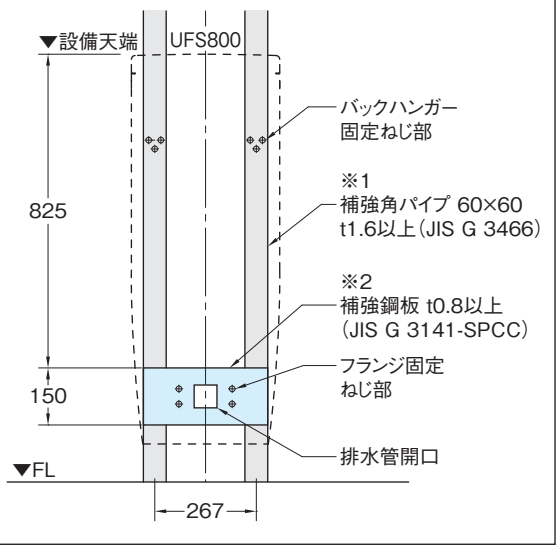
●専用の壁掛大便器取付スタンドを必ずご使用ください。
●排水フランジ固定ねじ部分の下地裏面に鋼板(t=0.8mm以上)を入れてください。

※12mm以上の構造用合板(JAS規格品)を下地全面に使用する場合、鋼板は不要です。

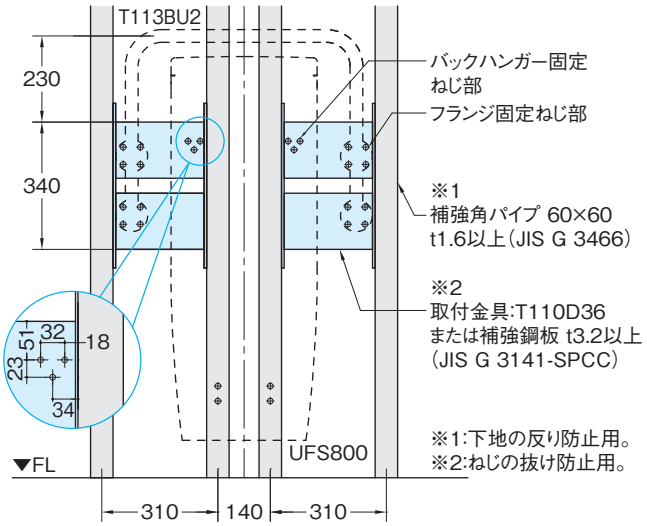
壁掛小便器が取り付く場合

参考図:UFS800

※1:下地の反り防止用。
※2:ねじの抜け防止用。



参考図:UFS800(小便器)、T113BU2(手すり)



●排水フランジ固定ねじ部分の下地裏面に鋼板(t=0.8mm以上)を入れてください。
●バックハンガー固定ねじ部分の下地裏面に角パイプ(60mm角、t=1.6mm以上)を入れてください。
→手すりと一緒に設置する場合は、手すり用取付金具に固定してください。【右図】

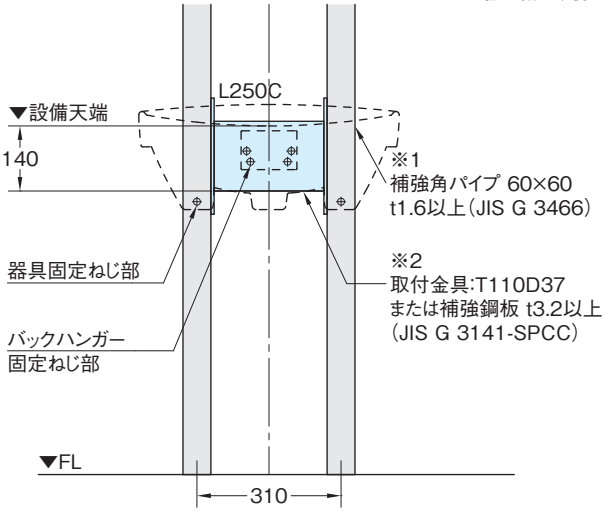
※12mm以上の構造用合板(JAS規格品)を下地全面に使用する場合、角パイプおよび鋼板は不要です。ただし、右図のように手すりが一緒に取り付く場合は除きます。

設計・施工時の留意点　設備機器が取り付く下地の補強方法

洗面器が取り付く場合

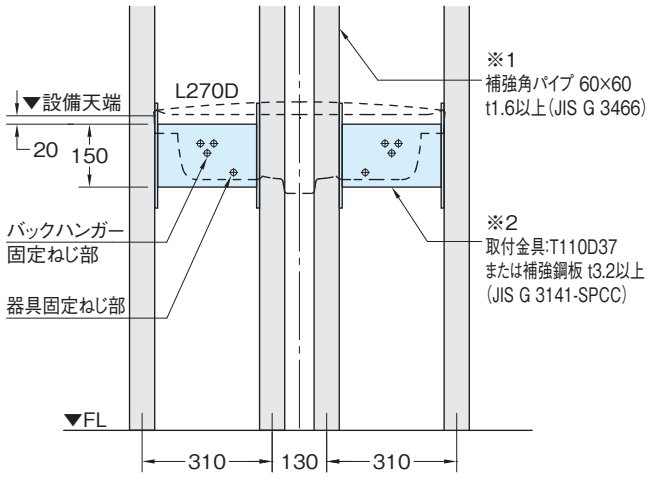
参考図:L250系

※1:下地の反り防止用。
※2:ねじの抜け防止用。



参考図:L270系

※1:下地の反り防止用。
※2:ねじの抜け防止用。



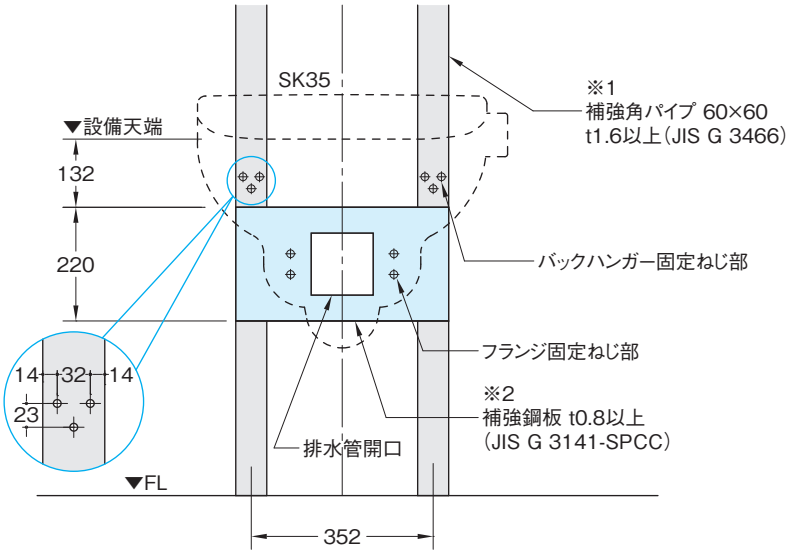
●器具固定ねじ部分の下地裏面に角パイプ(60mm角、t=1.6mm以上)を入れてください。
●バックハンガー固定ねじ部分の下地裏面に鋼板(t=3.2mm以上)を入れ、角パイプに固定してください。
→鋼板は手すり用取付金具(T110D37)が使用できます。

※補強木で対応する場合は、設計施工資料集の「衛生陶器を設置する際の壁補強(乾式工法)」を参照ください。(ただしL250系を設置する場合は、補強木の厚みを36mm以上としてください)

汚物流しが取り付く場合

参考図:SK35

※1:下地の反り防止用。
※2:ねじの抜け防止用。



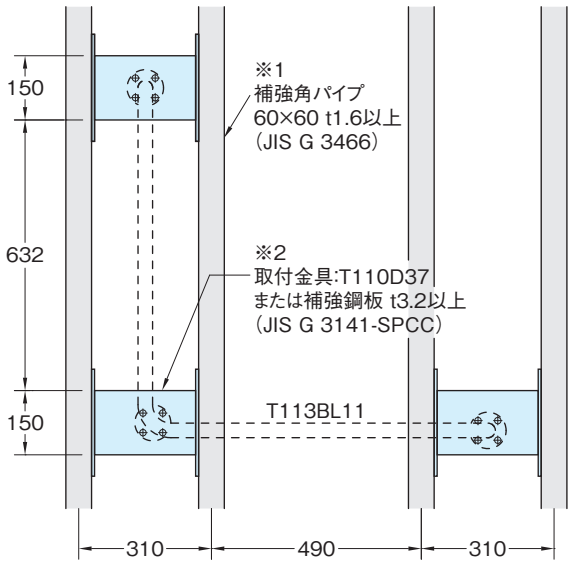
●バックハンガー固定ねじ部分の下地裏面に角パイプ(60mm角、t=1.6mm以上)を入れてください。
●排水フランジ固定ねじ部分の下地裏面に鋼板(t=0.8mm以上)を入れてください。

※12mm以上の構造用合板(JAS規格品)を下地全面に使用する場合、角パイプおよび鋼板は不要です。

手すりが取り付く場合

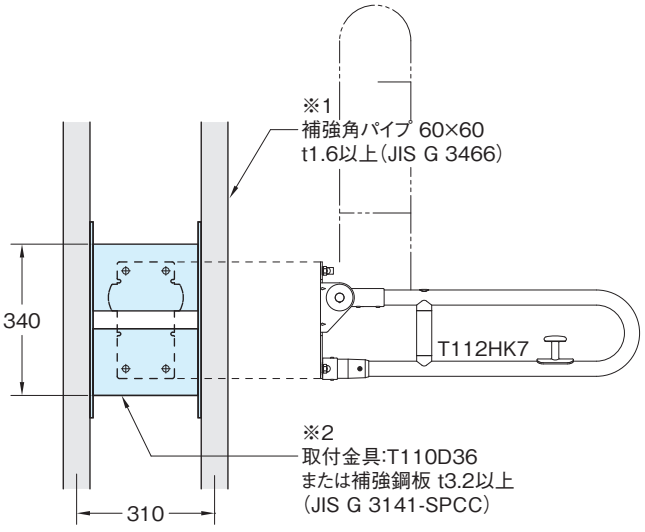
参考図:T113BL11

※1:下地の反り防止用。
※2:ねじの抜け防止用。



参考図:T112HK7

※1:下地の反り防止用。
※2:ねじの抜け防止用。



●フランジ固定ねじ部分の下地裏面に手すり用取付金具(T110D37など)または鋼板(t=3.2mm以上)を入れ、角パイプに固定してください。
【取り付けできない手すり】
レストルームドレッサーシステムシリーズオプション品のUGYHR600W2およびUGYHB201Mは取り付けできません。

【手すり別補強方法一覧】

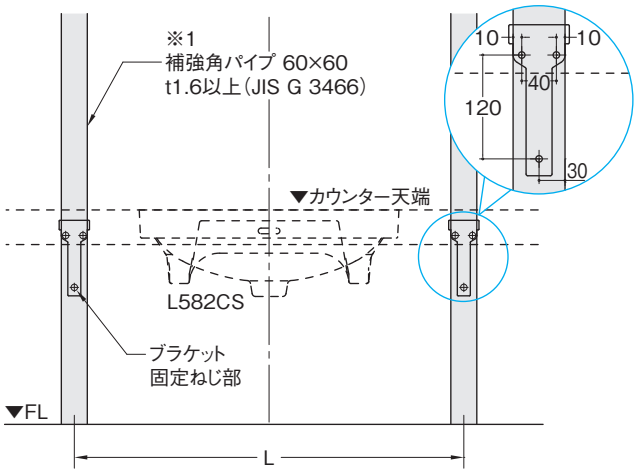
手すり種類	補強方法
【パブリック用手すり】 T112,113,114型	上図補強を行う。 ※補強木対応では取り付けできません。
【住宅用可動式手すりタイプ】 アームレスト・前方アームレスト・トイレアームレスト(壁固定) 住宅用はね上げ手すり	
【インテリア・バーシリーズ】 YHR型、TS134,135,136型	12mm以上の構造用合板(JAS規格品)を下地全面に使用する場合、角パイプおよび鋼板は不要です。
【天然木手すりシリーズ】YHB型 【ハンドグリップ】 【フリースタイル手すり】	

設計・施工時の留意点　設備機器が取り付く下地の補強方法

カウンターが取り付く場合

参考図:L582CS

※1:下地の反り防止用。



●ブラケット固定ねじ部分の下地裏面に角パイプ(60mm角、t=1.6mm以上)を入れてください。

※12mm以上の構造用合板(JAS規格品)を下地全面に使用し、かつ下地裏面に60mm以上の補強木を入れる場合、角パイプは不要です。補強木の範囲はカウンター取り付け位置より100mm以上広くし、強固な柱などにしっかりと固定してください。

その他

●棚付紙巻器
　→固定ねじ部の下地裏面に鋼板(t=0.8mm以上)を入れてください。
※12mm以上の構造用合板(JAS規格品)を下地全面に使用する場合、鋼板は不要です。

●フック
　→固定ねじ部の下地裏面に鋼板(t=0.8mm以上)を入れてください。
※12mm以上の構造用合板(JAS規格品)の補強木を使用する場合、鋼板は不要です。

●ベビーシート・ベビーチェア
　→設備機器の補強ガイドに従ってください。
　(補強鋼板や補強木を入れるなど)

●フィッティングボード
　→設備機器の補強ガイドに従ってください。
　(ねじ固定位置に軽量鉄骨を入れるなど)

●背もたれ
　→パブリック用手すりと同じ補強を行ってください。

施工手順　施工の流れ

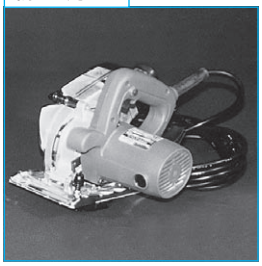
施工手順	作業のポイント
1 重要 下地補強	最初に必ず行うこと ●元請様と事前の打ち合わせを! ●下地の反り防止には補強角パイプを! ●ねじの抜け防止には補強鋼板・軽量鉄骨用取付金具を!
2 道具の準備	作業の質と効率を向上させる工具選び ●切断には･･･磁器タイル用ダイヤモンドホイール他 ●エッヂ処理には･･･ディスクグラインダー砥石／ダイヤモンド砥石他 ●穴開け加工には･･･ディスクグラインダー／磁器タイル用ドリル刃／磁器タイル用ダイヤモンドホールソー他 ●貼付けには･･･5mmクシ目コテ／ガラス用吸盤
3 運搬・搬入	割れない、欠けない上手な運び方・置き方 ●持ち方は「縦持ち」が基本!
4 割付	トラブルの起きない割り付け・墨出し ●開口部周りは切り欠かないように目地を設ける! ●切り欠き部が出ないように割り付ける! 躯体の動きによる破損を予防
5 切断	仕上がりのきれいな切断の仕方 ●丸ノコの刃は磁器タイル用の刃に! ●切断時はハイドロセラ・ウォール裏面にスキ間をつくらないように! ●刃の出幅は7mmにセット! ●切断は裏面ではなく表面側から! ●丸ノコの台座には養生テープを! キレイに仕上がり破損も低減する
6 加工	失敗しない加工テクニック ●「コンセントボックス」は四隅に穴を開けて切断! ●「丸穴」開けは磁器タイル用ドリル刃または磁器タイル用ダイヤモンドホールソーで! 開口部からの破損を予防
7 接着	簡単・正確・確実な接着方法 ●接着剤、両面テープは必ず専用品を使う! ●接着剤塗布は5mmのクシ目コテを使って全面接着! ●接着面にスキマができないように順序を守って圧着する! 圧着不足は破損に直結!
8 重要 設備機器の取付け	施工後に差が出る機器の取り付け ●荷重のかかるねじ周りは、縁を切って破損を防止! ●手すりがハイドロセラ・ウォールと直接あたらないように固定! （ハイドロセラ・ウォールを縁切りし、手すりを嵩上げ保持する） 設備取付部の破損を予防
完成（納まり）	空間別の各部の納まり ●用途は・キッチン・浴室・トイレ・パブリックスペースなど ●納まりイメージは、P.29～P.34を参照ください。

施工手順　事前準備

切断・穴あけなどに使用する主な電動工具

ディスクグラインダー

防じん丸ノコ



回転数9000回転以上

集塵機

電動ドリル

施工に使用する各種道具

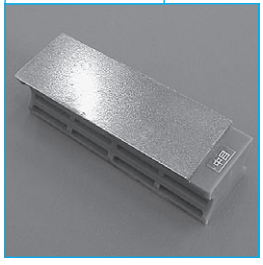
切断用工具

磁器タイル用ダイヤモンドホイール（波型）

TOTO AY401
外径105×刃厚1.0×
チップ高さ5.0×内径20

切断後のエッヂ処理

ダイヤモンド砥石



番手#100～400程度

オービタルサンダー

ねじの取付け穴開け

磁器タイル用ドリル刃

使用するねじ径よりも
4mm以上大きい物

給排水管などの穴開け

磁器タイル用ダイヤモンドホールソー

TOTO AY400（φ40）
AY500（φ50）

ねじ周辺の縁切りやフランジ用の穴開け

磁器タイル用ダイヤモンドホールソー

目的に応じてφ54～80を使用ください。P.22に設備別の推奨寸法を記載しています。

BOSCH ホールソー用シャンク

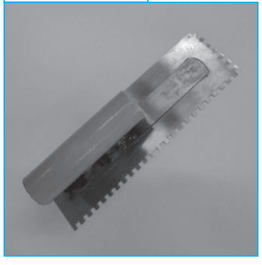
ストレートシャンク10mm PWC-SR10
13mm PWC-SR13
SDSプラスシャンク　PWC-SDS

位置決めガイド

BOSCH DHS-CG

接着剤塗布・貼りつけ

5mmクシ目コテ



ガラス用吸盤

シーリング処理

コーキングガン

⚠注意

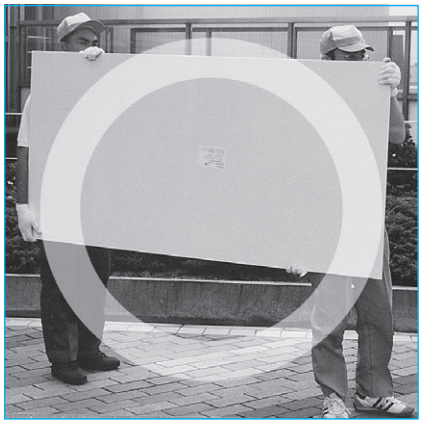
- ●切断・穴あけなどの加工作業の際には、防塵マスクや保護メガネなどの安全防具を着用してください。
- ●加工作業や貼りつけ作業の際には、切断道具や切断面でケガをしないように手袋などの安全防具を着用してください。

施工手順　運搬・搬入

※ハイドロセラ・ウォールはセラミック（陶磁器）です。落としたり強い衝撃を与えると割れる恐れがあります。

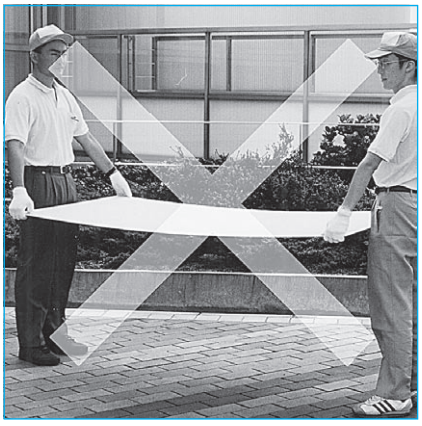
ヨレやタワみによる「割れ」を防ぐために。

運び方の良い例



縦持ちすると安心です

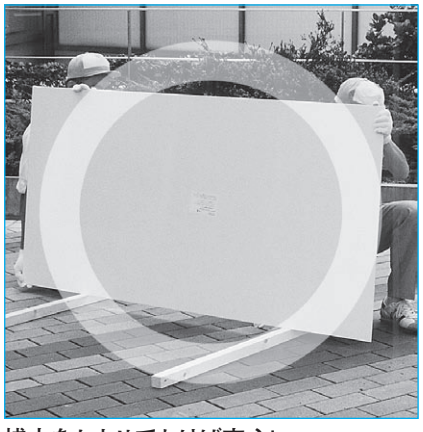
運び方の悪い例



平持ちするとタワんで割れてしまうことも…

パネルの角の「割れ」や「欠け」を防ぐために。

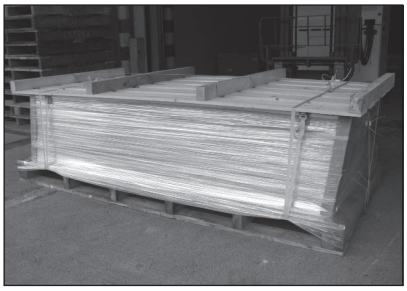
置き方の良い例

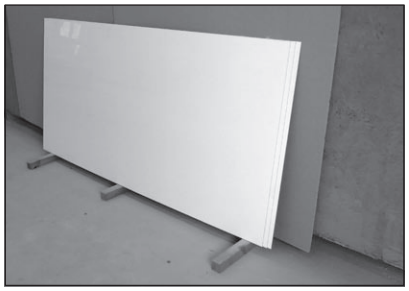


桟木をかませておけば安心!

置き方の悪い例

直置きするとパネルの角を損傷することが…



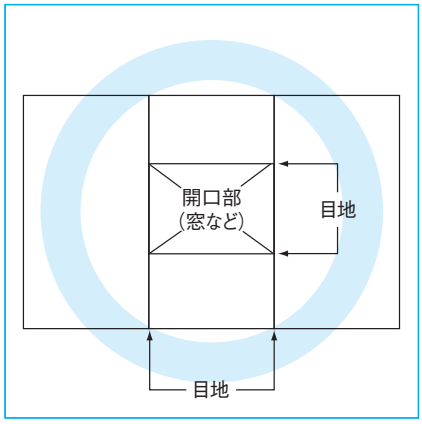


※1品番1回当たりの出荷が11枚以上の場合は、パレット輸送となります。
※仮置きの際は桟木をかいものにし、横向きに立て掛けてください。
※仮置きの際、表面同士を合わせて置くことは、お避けください。
※10枚以下の場合は個別包装です。

施工手順　割付け・墨出し

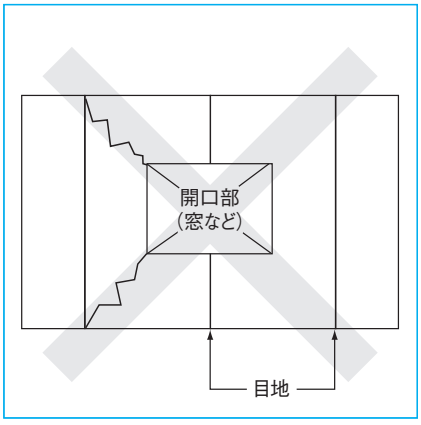
開口部の割付け

ハイドロセラ・ウォールで挟むように
開口部を割付ける



「割れ」の心配がない。

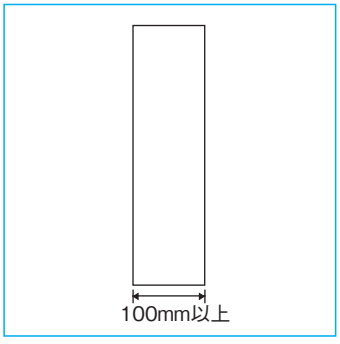
開口部を切り抜く



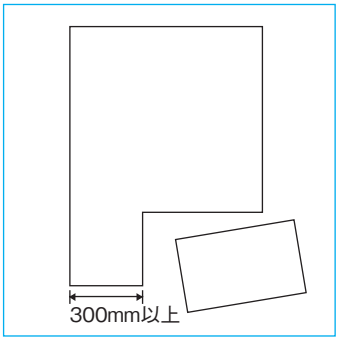
躯体の動きによってヒビや割れが･･･

小巾物や端部の加工

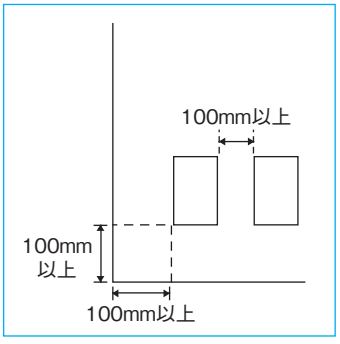
小巾物は
100mm以上確保する



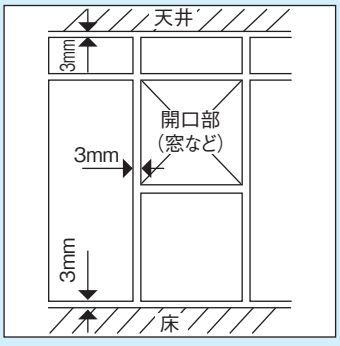
切り欠きなどの残り幅は、
必ず300mm以上を確保する



コンセントボックスなどの穴開けも
残り幅と間隔を100mm以上に



ポイント　床・天井・開口部も突きつけは
避けてください。



⚠注意

●残り幅や間隔が小さくならないように割り付けを工夫してください。やむを得ず小さくなる場合は、取り扱い時などに破損しないよう、十分注意してください。

施工手順　切断

1.丸ノコの刃は磁器タイル用の刃に!

磁器タイル用ダイヤモンドホイール（波型）

TOTO AY401
外径105×刃厚1.0×
チップ高さ5.0×内径20
（mm）
※他社品をご使用の際は、上記サイズを参照してください。

チップソー

⚠注意
●チップソーでは切れません。

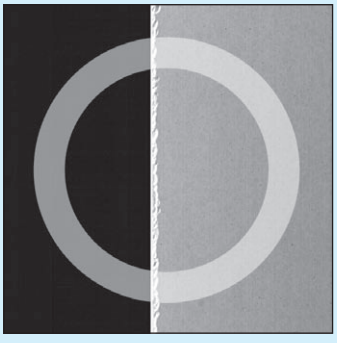
ポイント　丸ノコの台座に養生テープを貼って切断。

○丸ノコの台座にガムテープなどで養生してから切断するようにしてください。

○養生せずに切断すると表面に金属跡がついてしまうことがあります。
○誤って金属跡が残ってしまった場合は、酸性洗剤で取ることができます。

ポイント　表面側から切断するとチッピングを抑えられます。

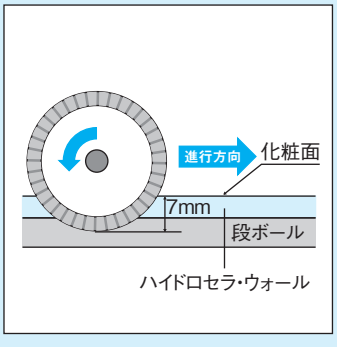
○表面側から切断するとチッピングが抑えられます。



○裏面側から切断すると大きなチッピングが発生します。

ポイント　刃の出幅は7mmにセットして切断。

○刃の出幅を7mmにして段ボールごと切断するのがコツです。



⚠注意
●スタイロフォームなど可燃性のものは下敷きにしないでください。切断の最中に刃が高温になり、溶け出す恐れがあります。

施工手順　切断

2.作業は体重をかけない姿勢で!

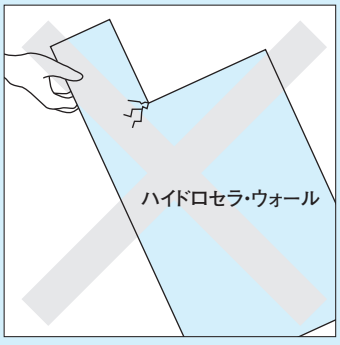
ポイント　平らな下地に、段ボールを敷いてゆっくり切断

○定規等をあてて切断することで未然にクラックを防止でき、チッピングが少なくできます。

足やヒザでハイドロセラ・ウォールに体重をかける

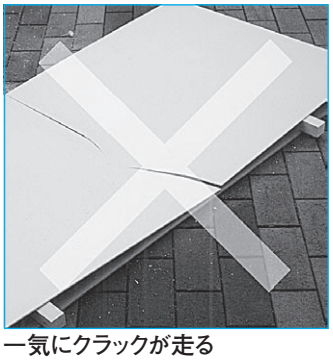
作業面が不安定だと割れる

ポイント　持ち運ぶ時は、細い部分を持たないようにしてください。



3.桟木で橋渡しせず平面に置く!

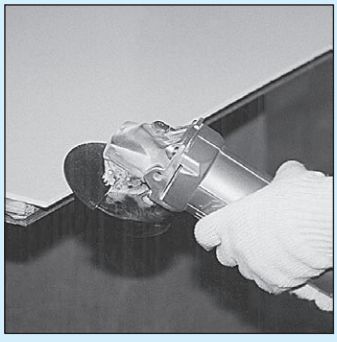
桟木を敷いて切断



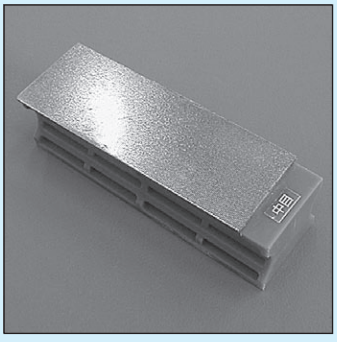
一気にクラックが走る

ポイント　切断面のチッピングは、ディスクグラインダー砥石で処理します。

○ハイドロセラ・ウォールは乾式で切断するため、若干のチッピングが発生します。ディスクグラインダー砥石やダイヤモンド砥石でエッヂ処理してください。オービタルサンダーでも処理は可能です。

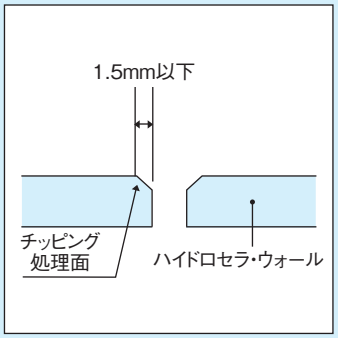


ダイヤモンド砥石



オービタルサンダー

○処理面が大きすぎると目地幅が広くなりますのでご注意ください。

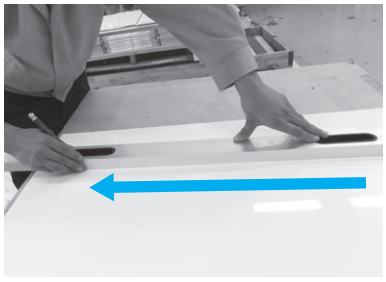


その他の切断方法

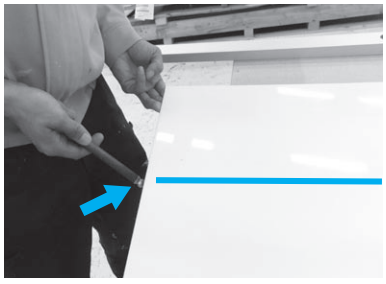
ガラスカッター（ローラータイプ）
板厚5～6mm対応のもの

●ハイドロセラ・ウォールは、ガラス切断用のガラスカッターでも切断することができます。
●騒音、粉塵が出ません。

切断箇所に置いた定規に、ガラスカッターを押し当てる。



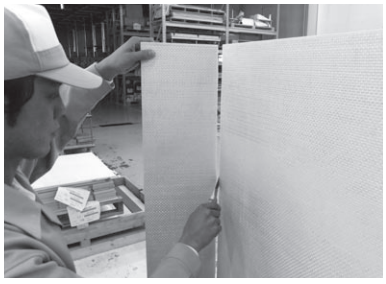
端から端まで一気に切り込みを入れる。



切り込み部分の裏からガラスカッターの柄で軽く叩く。

切り込み部の真下にガラスカッターの柄を置き、上から押さえると割れます。

作業台の端を利用して割ることもできます。



裏面のガラスクロスをカッターなどで切断する。

切断面をダイヤモンド砥石で仕上げて完了。

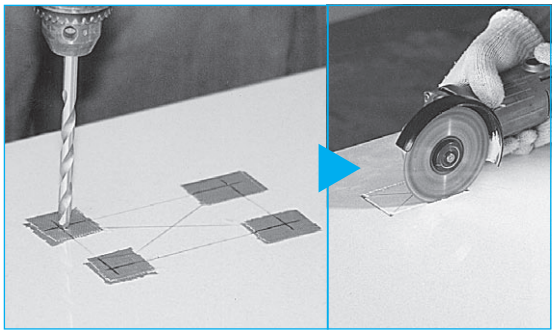
⚠注意

●切り欠き、穴あけはできません。
●特殊面状は切断できません。
●100mm以下の幅には切断できません。

施工手順　加工

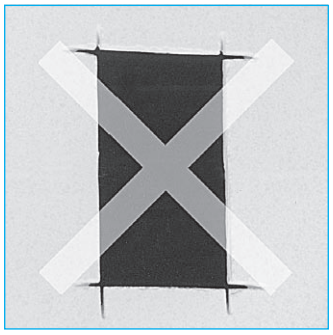
「コンセントボックス」は四隅に穴を開けてからカット!

穴を開けてから穴をつなぐように切断



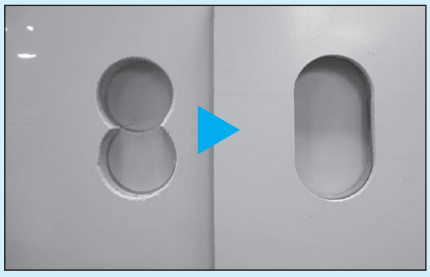
角を丸くして割れの誘発を防ぐ

ディスクグラインダーだけで切断



切りすぎた部分がひび割れの原因に

アドバイス　こんな穴あけ方法もあります。



※ダイヤモンドホールソーで上下2つ穴をあけ、つなげて完成。

⚠注意
●不安定な状態で加工しないでください。
破損の原因となります。

「丸穴」開けは磁器タイル用ドリルまたは磁器タイル用ホールソーで!

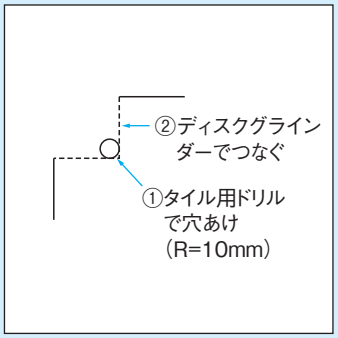
10mm以下は磁器タイル用ドリルで穴開け

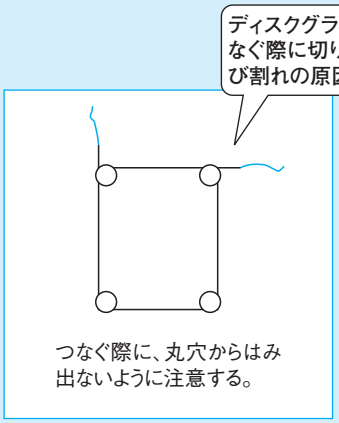
※基本
ビス径＋4mmのドリルを使用してください。

10mm以上は磁器タイル用ダイヤモンドホールソーで穴開け

ポイント　角部を丸くすることで割れの誘発を防止。

○切り欠きを行う場合は、角部からの割れの誘発を防止するために、角部を丸くします。

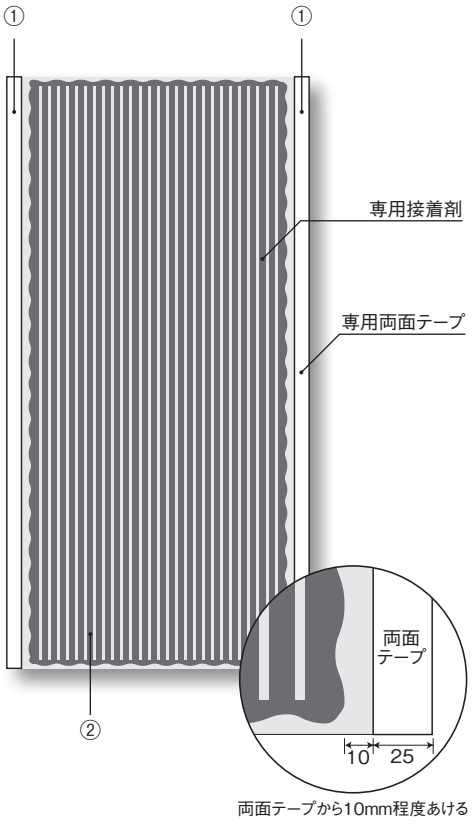




つなぐ際に、丸穴からはみ出ないように注意する。

施工手順　接着

接着剤塗布・両面テープ張付方法



●専用両面テープの張り方
①ハイドロセラ・ウォールの長手方向両端部に張る。

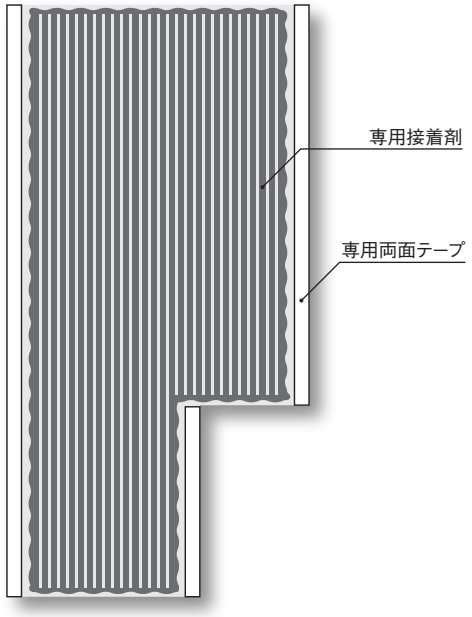
●専用接着剤の塗り方
②5mmのクシ目コテで全面に塗布します。
このとき、両面テープと接着剤の間は10mm程度あけ、両面テープと同一方向に直線引きしてください。

●塗布量の目やす
1m²あたり1袋（2.0kg）が目やすです。

⚠注意

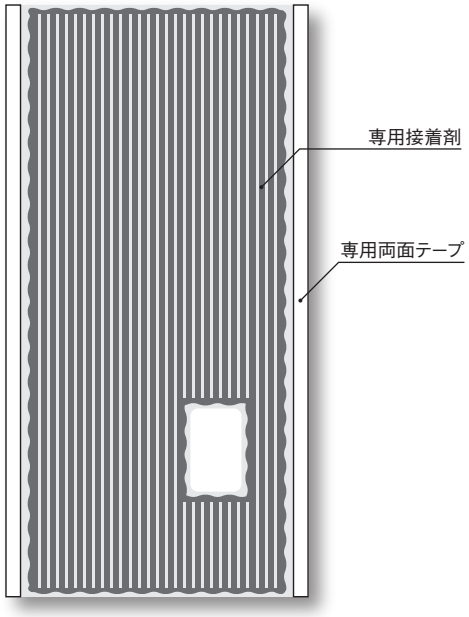
●必ず専用両面テープと専用接着剤を使用してください。
●接着剤は必ずクシ目コテで全面塗布してください。
●張り付ける際、圧着により接着剤が両面テープの下にまわり込むのを防ぐために両面テープと接着剤の間は10mm程度あけてください。
●接着剤塗布後、夏期は30分以内、冬期は1時間以内に張り付けを完了してください。
●下地がケイカル板の場合には、プライマー処理を施してください。（推奨:セメダイン MP1000）
●モルタル施工はできません。
●5℃以下の環境では施工しないでください。
（接着剤の硬化不良のおそれがあります）
●養生期間は夏期24時間、冬期48時間以上です。設備を取付ける際は十分ご注意ください。

切り欠きがある場合



●切り欠き部の縦方向端部にも両面テープを張り、その他の部分は専用接着剤をクシ目コテで全面塗布してください。

コンセントボックスなど小さな開口がある場合

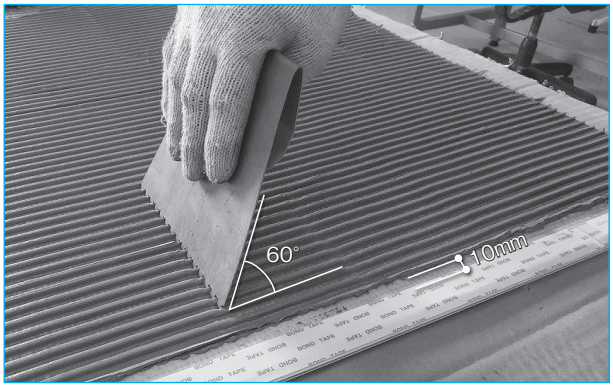


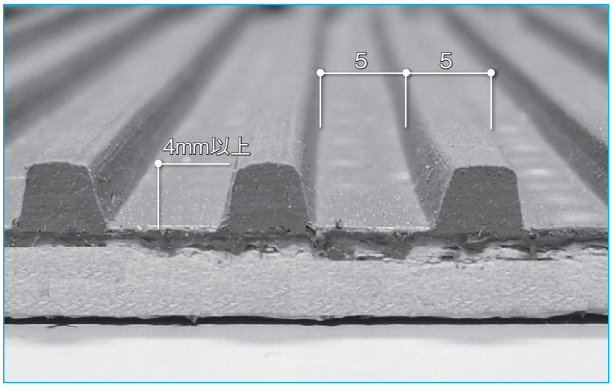
●開口部周囲は必ず専用接着剤を塗布してください。

施工手順　接着

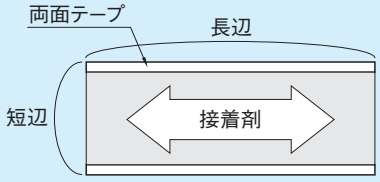
1.フィルムパックの端部を開封し、しぼり出す。

2.しぼり出した接着剤をクシ目コテを用いて、かき取るように引く。





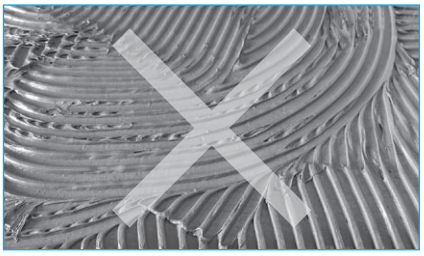
⚠注意
- ●両面テープは長辺方向の端部に張ります。
- ●接着剤は両面テープと同じ方向に直線引きします。
- ●両面テープと接着剤の間は約10mm程度あけます。
- ●クシ目の山は4mm以上立てます。(60度の角度で引くと立ちやすい)



こんな場合はNGです!

かすれている

山がたってない


塗り付け過ぎ
クシ目の方向がバラバラ

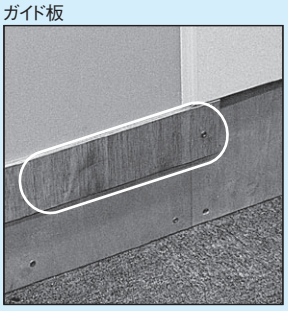
⚠注意
- ●接着不良は設備取り付け時や経年劣化に対応できず、割れや剥がれの原因となります。
  必ず5mmのクシ目コテを使用し、正しく施工してください。

アドバイス 吸盤とガイド板があれば、作業効率がアップ

○ハイドロセラ・ウォールを吸盤を使って持ち、下部に設けたガイド板を使ってスライドさせていくだけ。本固定が1人でもスムーズに行えます。

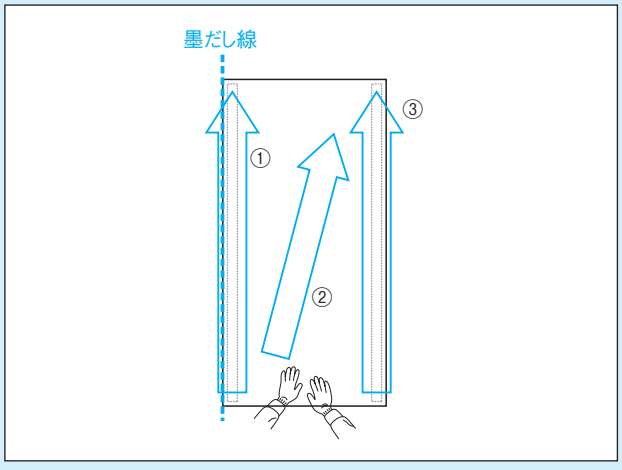
ガラス板の吸盤

ガイド板



※面状によっては吸盤が付かない場合があります。

重　要 接着面にスキマができないように順序を守って圧着する。

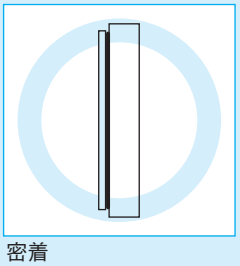


貼り付けの際は、墨だし線や入隅などの位置に合わせ、
①位置決めした側の両面テープ部分を下から上へ押さえる
②中央部分を下から上へ空気を逃がすように押さえる
③もう片方の両面テープ部分を下から上へ押さえる

アドバイス シーリングすきま（3mm）は、スペーサーを利用すると便利。

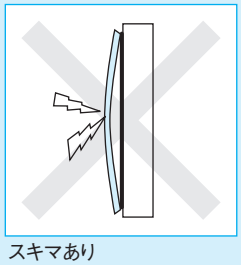
○両面テープで取り付けたスペーサーにハイドロセラ・ウォールを押し付けて固定するとシーリングすき間（3mm）の確保も楽に確実に行えます。

圧着良好



密着

圧着不良



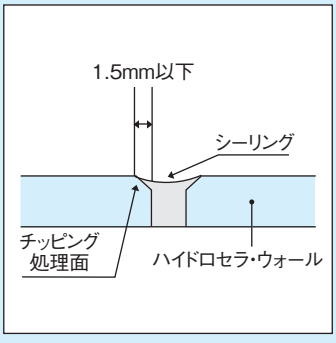
スキマあり

仕上げにパネルジョイント部にシーリング処理をして完成です。

ポイント チッピング処理面を覆うようにシーリング処理。

○チッピング処理面を覆うようにシーリング処理してください。

※水がかりのある場所への設備取付けは必ずシーリング処理してください。
※カット面はできる限り、入隅側・天井側・床側に飲み込ませるようにしてください。



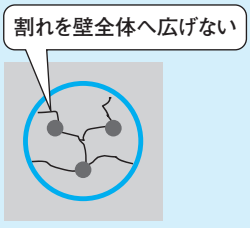
設備機器の取り付け　施工後の破損を防ぐために

ハイドロセラ・ウォールに設備機器を取り付ける場合、
施工後の破損を防ぐために下記の対策を行ってください。

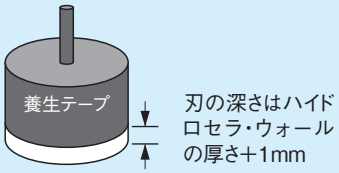
1.ねじ周りの縁切り

荷重のかかるねじの周囲をホールソーで円形に縁切りすることで、
万が一ねじ部から割れが生じても、壁全体へ割れを広げないためのハイドロセラへの加工です。

対象部位:バックハンガー固定ねじ、フランジ固定ねじ、手すり固定ねじ



アドバイス
ホールソーに養生テープを張って
縁切り深さの目安に!



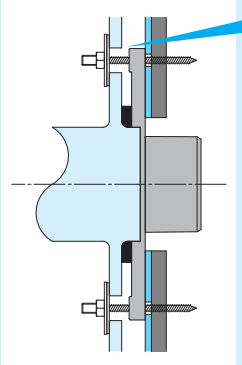
⚠注意
- ホールソーで円形に縁切りすることがポイントです。ディスクグラインダーなどで四角に切り欠くと破損の原因になりますので、おやめください。
- ハイドロセラへの加工です。下地までは切らないでください。

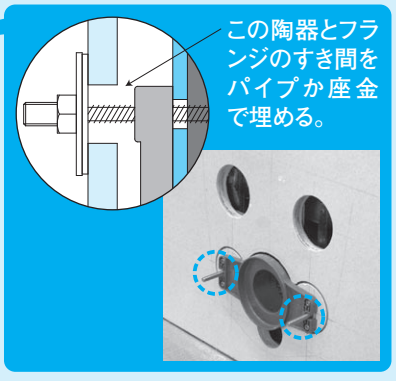
詳しくは、次ページ以降をご確認ください。

2.フランジの変形防止

排水フランジの器具固定ボルトを締め込む際、器具とフランジとの間にすき間があるため、締め込み過ぎるとハイドロセラ(壁面)が引っ張られて破損の原因になります。そこで、陶器の器具固定ボルト穴にパイプもしくは座金を差し込み、ナットの締め過ぎを防止します。

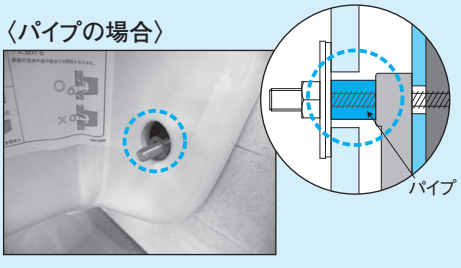
対象設備:
壁掛大便器、壁掛小便器(スリップインタイプは除く)、
汚物流し など



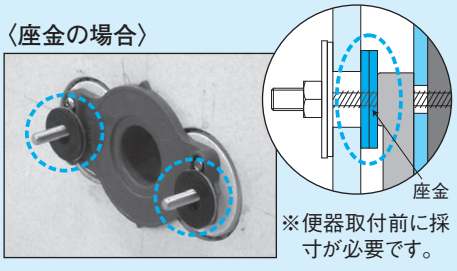


⚠注意
- パイプ・座金は現場手配となります。
- パイプは肉厚1mm以上の塩ビ管、鋼管などをご使用ください。
- スリップインタイプの小便器には不要です。

〈パイプの場合〉



〈座金の場合〉

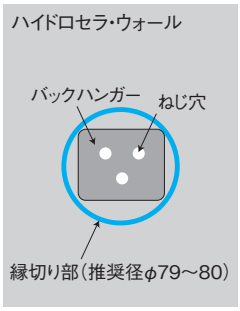
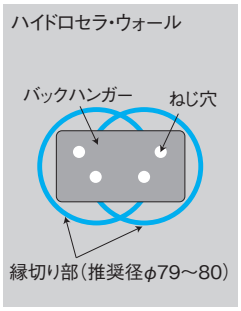
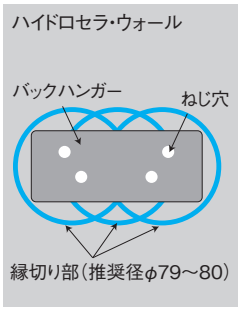


※便器取付前に採寸が必要です。

詳しくは、各設備機器の取付方法をご確認ください。

設備機器の取り付け　縁切り位置の詳細図

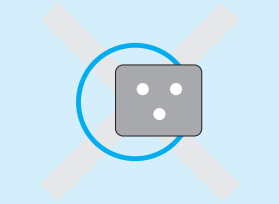
バックハンガー固定ねじ周りの縁切り

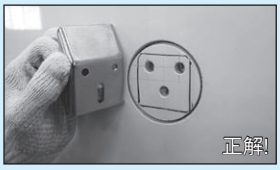
バックハンガー形状と縁切りの位置			
縁切り数	1	2	3
バックハンガー品番	T9R、T9RA、T9N TL10D、TL120D、TL220D	HM80	TL250-1D、TL250D
対象設備	洗面器、手洗器、 流し、小便器	手洗器	洗面器

※水が入り込むおそれのある場合は、縁切り部分をシーリング処理してください。

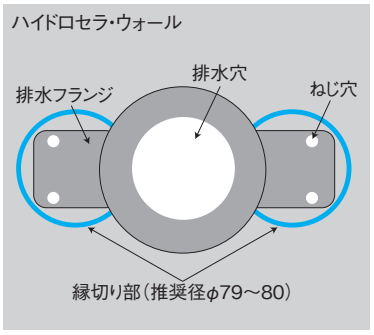
ポイント

バックハンガーを円の内側に

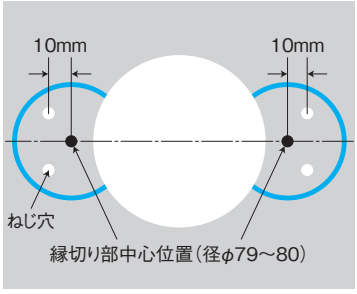




フランジ固定ねじ周りの縁切り

縁切りの位置	
縁切り数	2
対象設備	大便器、小便器、汚物流しなど

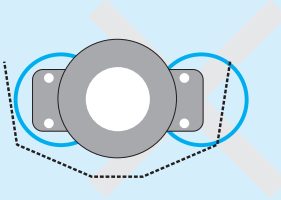
〈縁切り部分の中心位置の目安〉
ねじ穴から10mm内側
※加工前にフランジを当てて確認してください。



ポイント

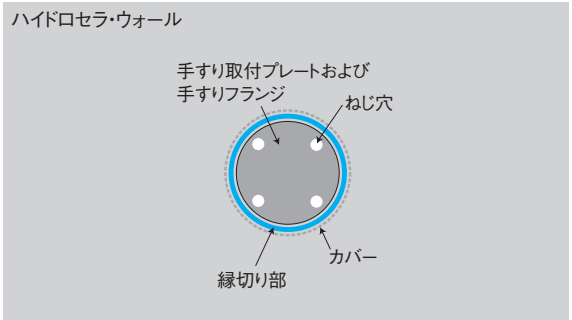
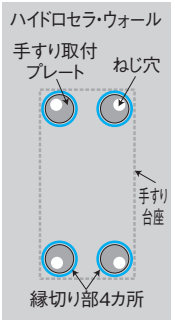
フランジ固定部を円の内側にかつ、陶器からはみ出ないように

外側に切り過ぎると陶器からはみ出ます。



※水が入り込むおそれのある場合は、縁切り部分をシーリング処理してください。

手すり固定ねじ周りの縁切り

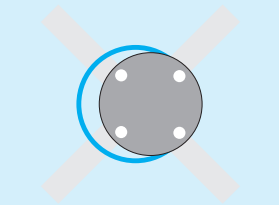
縁切りの位置				
対象手すり	T112,113型	T114型、TS134,135,136型	YHR型	可動式
縁切り推奨径	φ79～80	φ67	φ54	φ40
推奨工具	BOSCH DHS-079C（φ79）	BOSCH DHS-067C（φ67）	BOSCH DHS-054C（φ54）	TOTO AY400（φ40）

※手すり取り付けの際は、手すり取付プレート（別途品揃え）を必ずご使用ください。
※水が入り込むおそれのある場合は、縁切り部分をシーリング処理してください。
※上記対象品番以外の手すりは施工方法が異なります。事前にお問い合わせください。

ポイント

カバーからはみ出ないように

縁切り位置がずれるとカバーや台座を付けたときにはみ出ます。



設備機器の取り付け　壁掛大便器の取り付け方

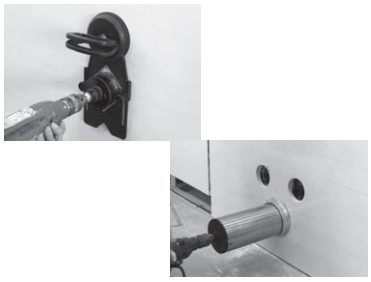
※取付前に必ずP.21～22をご確認ください。

ハイドロセラ・ウォールへの壁掛大便器取付手順

けがき

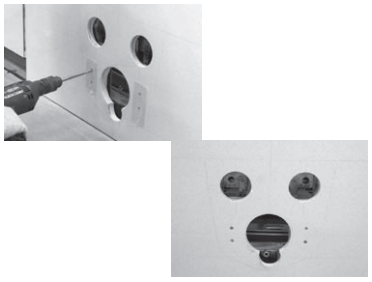
ねじ穴や排水穴などをけがく。

穴あけ



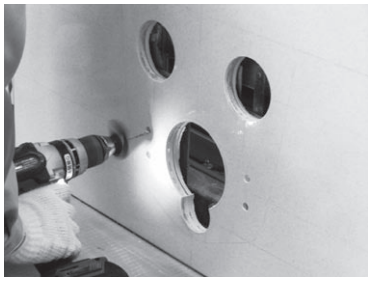
ホールソーで取付スタンド用の穴をあける。
下地材は自在カンナなどであける。

下穴あけ（ハイドロセラ）



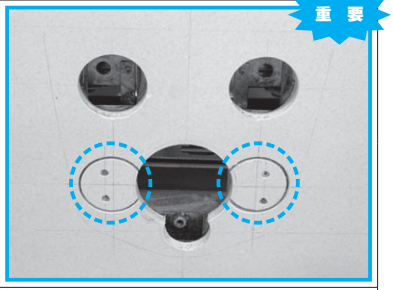
ハイドロセラにフランジねじの下穴をあける。下穴径はねじ径＋4mm。
注意:下地にはあけない。

下穴あけ（下地）



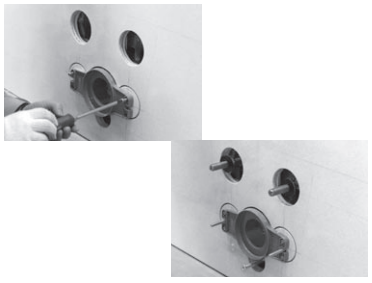
下地および裏面補強材にフランジねじの下穴をあける。下穴径は3～3.5mm。
参考:ドリル刃の根元にゴム板などを付けてハイドロセラとの接触を防ぐ。

縁切り



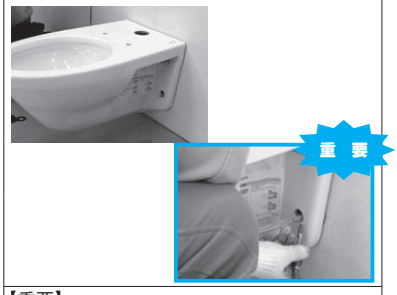
【重要】
フランジねじ周りをホールソーで縁切りする。
注意:下地にはあけない。また、ハイドロセラははがさない。
参考:縁切りの際、位置決めガイドを使用すると、ズレ防止になる。

フランジ取り付け



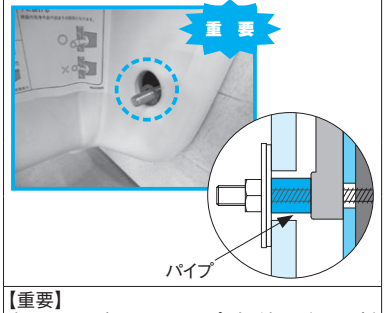
フランジを取り付ける。
注意:最後は必ず手締めする。

採寸



【重要】
陶器を仮置きし、フランジ変形防止用のパイプを採寸する。
参考:パイプ内径12～13mm。
注意:パイプは現場手配。

フランジ変形防止



【重要】
陶器の面に合うようにパイプを切断し、ボルトへ挿入する。
注意:長すぎると陶器が固定されないので面からは出ないように。

便器取り付け

便器を取り付ける。
注意:最後は手締めする。
参考:締め付けトルク5N·m程度。

⚠注意

裏面補強に角パイプや鋼板を使用した場合、付属の木ネジでは入りません。ドリルねじ（現場手配）を使用してください。

設備機器の取り付け　壁掛小便器の取り付け方

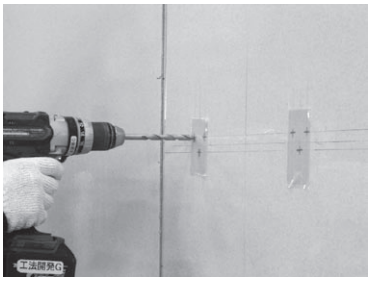
※取付前に必ずP.21～22をご確認ください。

ハイドロセラ・ウォールへの壁掛小便器取付手順

けがき

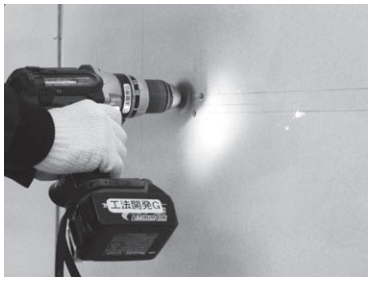
ねじ穴や排水穴などをけがきます。

下穴あけ（ハイドロセラ）



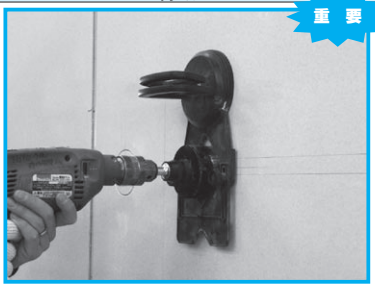
ハイドロセラにバックハンガーおよびフランジねじ部の下穴をあける。下穴径はねじ径＋4mm。
注意:下地にはあけない。
参考:あらかじめ養生テープを張っておくとドリル刃のズレ防止になる。

下穴あけ（下地）



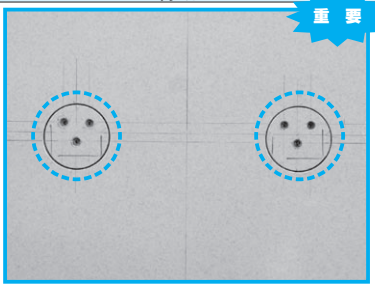
下地および裏面補強材にバックハンガーおよびフランジねじ部の下穴をあける。下穴径は3～3.5mm。
参考:ドリル刃の根元にゴム板などを付けてハイドロセラとの接触を防ぐ。

縁切り



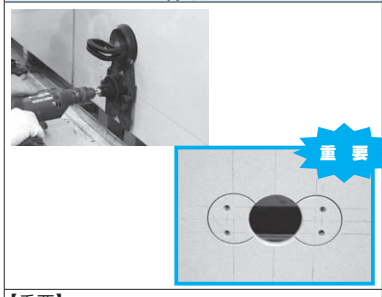
【重要】
バックハンガー部ねじ周りをホールソーで縁を切る。
注意:下地にはあけない。また、ハイドロセラははがさない。
参考:縁切りの際、位置決めガイドを使用するとズレ防止になる。

縁切り



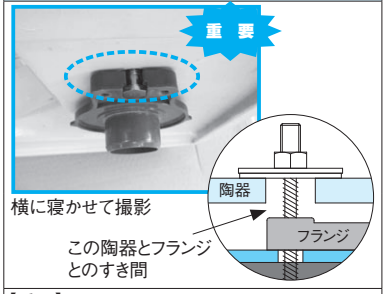
【重要】
バックハンガーが円の中に入るように注意する。

縁切り



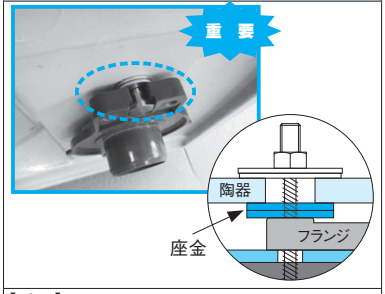
【重要】
フランジねじ周りにもホールソーで縁切りする。
注意:下地にはあけない。また、ハイドロセラははがさない。

フランジ変形防止



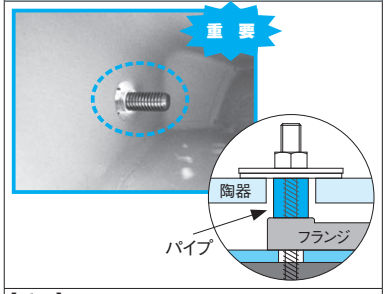
【重要】
フランジ取付前に便器とフランジのすき間を確認する。このすき間が締め付けにより破損の原因になる。
便器を横に寝かせると確認しやすい。

フランジ変形防止



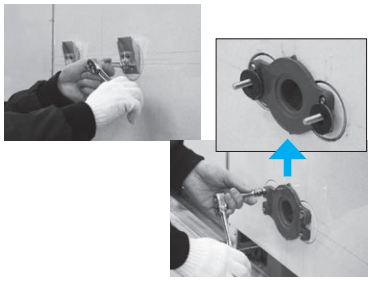
【重要】
フランジと便器とのすき間を座金（現場手配）で埋めるための採寸をする。
ここですき間厚みを確認しておき、便器設置時に再度取り付ける。

フランジ変形防止



【重要】
座金ではなく、パイプ（現場手配）を採寸して挿入してもよい。（壁掛大便器と同様）

バックハンガー・フランジ取り付け



バックハンガーおよびフランジを取り付ける。
器具固定ボルトに座金を差し込む。
注意:最後は手締めする。

便器取り付け

小便器を取り付ける。
参考:器具固定ボルトの締め付けトルク5N・m程度。

⚠注意

裏面補強に角パイプや鋼板を使用した場合、付属の木ネジでは入りません。ドリルねじ（現場手配）を使用してください。

設備機器の取り付け　洗面器の取り付け方

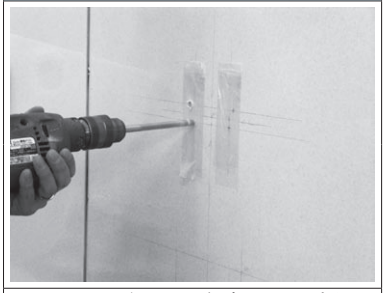
※取付前に必ずP.21～22をご確認ください。

ハイドロセラ・ウォールへの洗面器取付手順

けがき

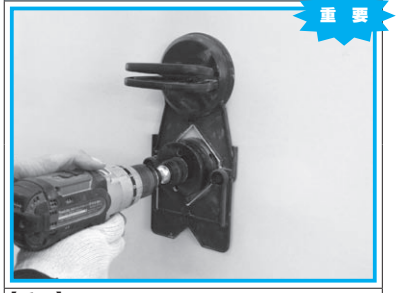
ねじ穴や給排水穴などをけがく。

下穴あけ（ハイドロセラ）



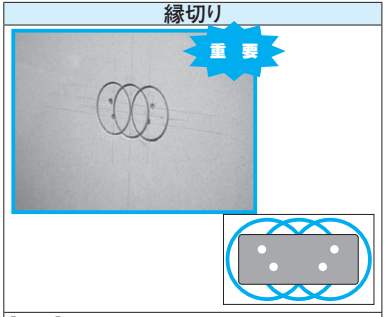
ハイドロセラにバックハンガー部ねじの下穴をあける。下穴径はねじ径＋4mm。
注意:下地にはあけない。
参考:あらかじめ養生テープを張っておくとドリル刃のズレ防止になる。

縁切り



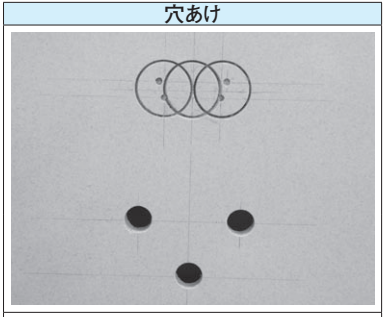
【重要】
バックハンガー部ねじ周りをホールソーで縁を切る。
注意:下地にはあけない。また、ハイドロセラははがさない。
参考:縁切りの際、位置決めガイドを使用するとズレ防止になる。

縁切り



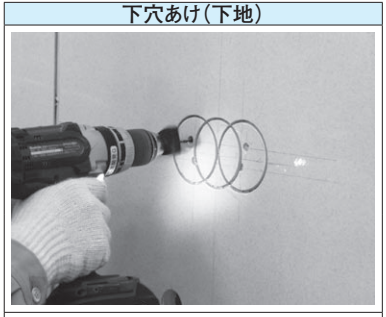
【重要】
バックハンガーが円の中に入るように注意する。
注意:バックハンガーが長方形の場合は、円を3つ連ねる。

穴あけ



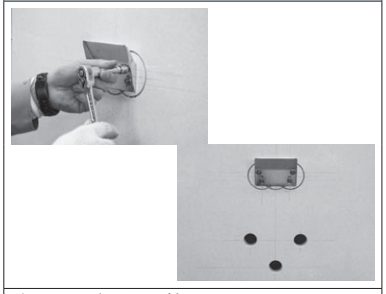
ホールソーで給排水管の穴をあける。

下穴あけ（下地）



下地および裏面補強材にバックハンガー部ねじの下穴をあける。下穴径は3～3.5mm。
参考:ドリル刃の根元にゴム板などを付けてハイドロセラとの接触を防ぐ。

バックハンガー取り付け



バックハンガーを取り付ける。
注意:最後は手締めする。

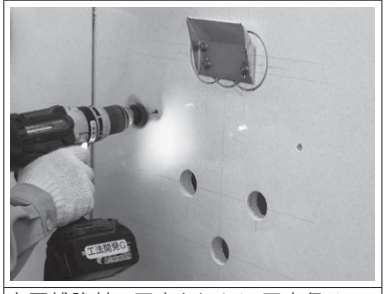
けがき

洗面器を仮置きし、器具固定ねじの穴位置をけがく。

下穴あけ（ハイドロセラ）

ハイドロセラにねじの下穴をあける。下穴径はねじ径＋4mm。
注意:下地にはあけない。

下穴あけ（下地）



裏面補強材に下穴をあける。下穴径は3～3.5mm。

便器取り付け

洗面器を取り付ける。
注意:最後は手締めする。

⚠注意

裏面補強に角パイプや鋼板を使用した場合、付属の木ネジでは入りません。ドリルねじ（現場手配）を使用してください。

設備機器の取り付け　汚物流しの取り付け方

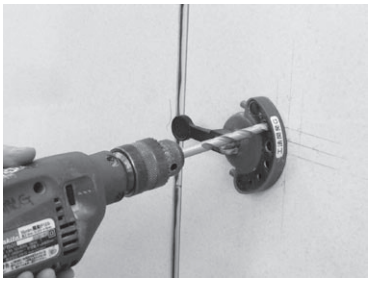
※取付前に必ずP.21～22をご確認ください。

ハイドロセラ・ウォールへの汚物流し取付手順

けがき

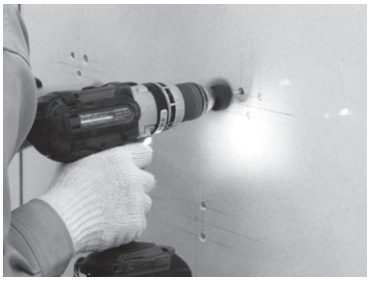
ねじ穴や排水穴などをけがく。

下穴あけ（ハイドロセラ）



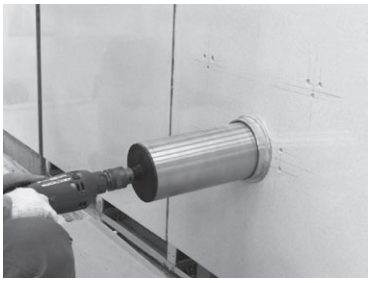
ハイドロセラにバックハンガーおよびフランジねじ部の下穴をあける。下穴径はねじ径＋4mm。
注意:下地にはあけない。
参考:写真はドリルガイドを使用。

下穴あけ（下地）



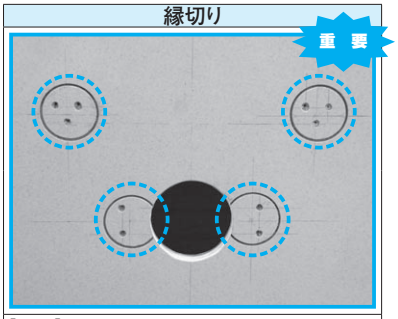
下地および裏面補強材にバックハンガーおよびフランジねじ部の下穴をあける。下穴径は3～3.5mm。
参考:ドリル刃の根元にゴム板などを付けてハイドロセラとの接触を防ぐ。

穴あけ



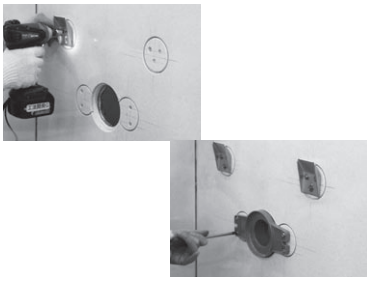
ホールソーでハイドロセラに排水穴をあける。
下地材は自在カンナなどであける。

縁切り



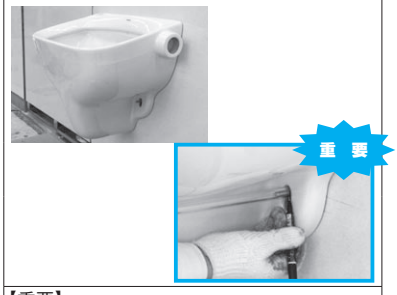
【重要】
バックハンガー部およびフランジねじ周りをホールソーで縁切りする。
注意:下地にはあけない。また、ハイドロセラははがさない。

バックハンガー・フランジ取り付け



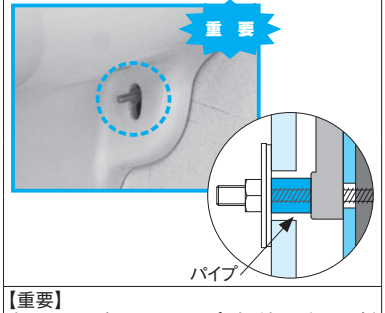
バックハンガーおよびフランジを取り付ける。
注意:最後は必ず手締めする。

フランジ変形防止



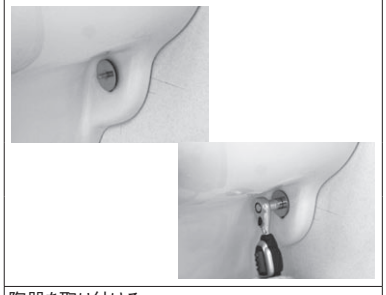
【重要】
陶器を仮置きし、フランジ変形防止用のパイプを採寸する。
参考:パイプ内径12～13mm。
注意:パイプは現場手配。

フランジ変形防止



【重要】
陶器の面に合うようにパイプを切断し、ボルトへ挿入する。
注意:長すぎると陶器が固定されないので面からは出ないように。

陶器取り付け



陶器を取り付ける。
注意:最後は手締めする。
参考:締め付けトルク5N·m程度。

⚠注意

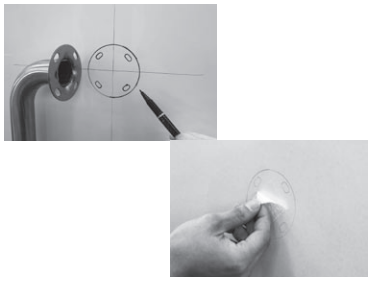
裏面補強に角パイプや鋼板を使用した場合、付属の木ネジでは入りません。ドリルねじ（現場手配）を使用してください。

設備機器の取り付け　手すり（固定式）の取り付け方

※取付前に必ずP.21～22をご確認ください。

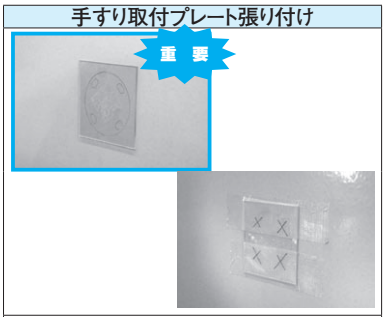
ハイドロセラ・ウォールへの手すり（固定式）取付手順 ※背もたれも同様です。

けがき



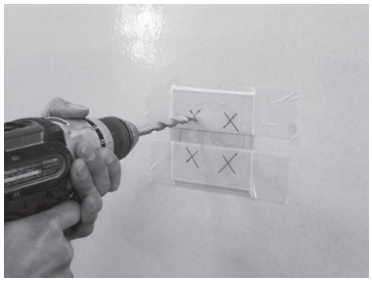
手すりのフランジ位置をけがき、ねじ位置に重ならないように薄手の両面テープ（現場手配）を張る。手すり取付プレートの表面保護フィルムははがしておく。

手すり取付プレート張り付け



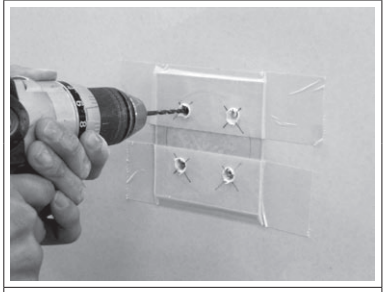
【重要】
手すり取付プレートをフランジ位置に張り付ける。さらに、プレートの固定とドリル刃のズレ防止を兼ねて養生テープを張る。

下穴あけ（ハイドロセラ）



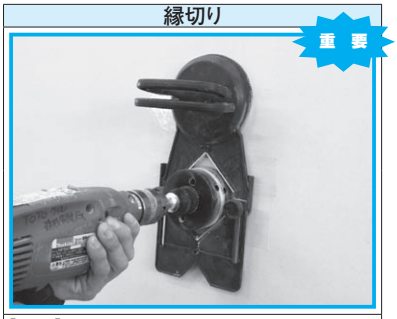
磁器タイル用ドリル刃で手すり取付プレートごとハイドロセラにねじの下穴をあけます。下穴径はねじ径＋4mm。
注意:下地にはあけない。

下穴あけ（下地）



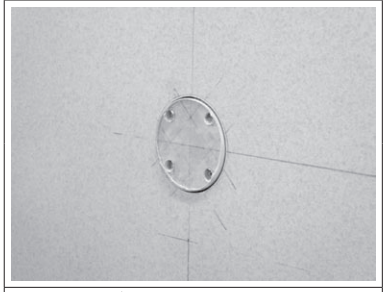
下地および裏面補強材にねじの下穴をあける。下穴径は3～3.5mm。（ドリルねじ固定の場合）

縁切り



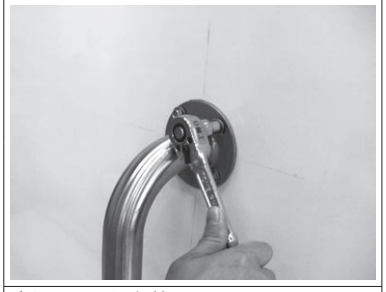
【重要】
ホールソー（※）で手すり取付プレートごとねじ穴周りを縁切りする。※径はP.22参照
注意:下地にはあけない。また、ハイドロセラははがさない。

縁切り



フランジ嵩上げ部分を残し、手すり取付プレートの不要部を取り除く。

手すり取り付け

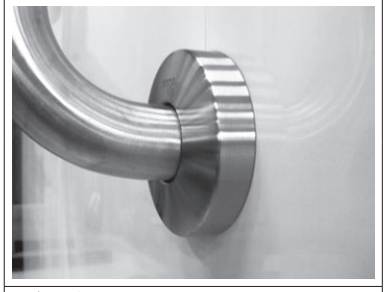


手すりフランジを留付ける。
注意:最後は手締めする。

嵩上げ確認

ハイドロセラと手すりフランジに約2mmの嵩上げができることを確認する。

カバー



カバーをする。

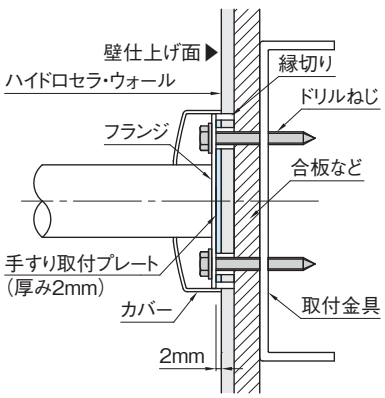
⚠注意

- ●必ず手すり取付金具を使用して補強してください。
- ●縁切りはカバーからはみ出ないように注意してください。
- ●浴室など水がかりのある場所では手すり取付プレート周囲をシーリング処理してください。
- ●P.22に記載されていない手すりは、施工方法が異なります。事前にお問い合わせください。

手すり取付プレート

●手すり取付プレートにより、ハイドロセラ・ウォールと手すりフランジとの間に約2mmの嵩上げができますので、ハイドロセラ・ウォールと手すりフランジが接触するのを防ぎます。

品番	形状（mm）	材質	カラー
AD312	100×100×2	PET	透明

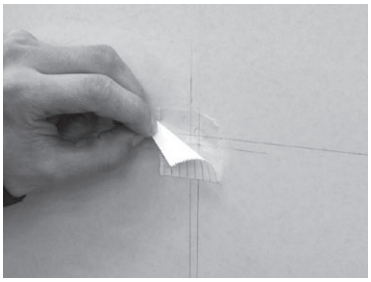


設備機器の取り付け　手すり（可動式）の取り付け方

※取付前に必ずP.21～22をご確認ください。

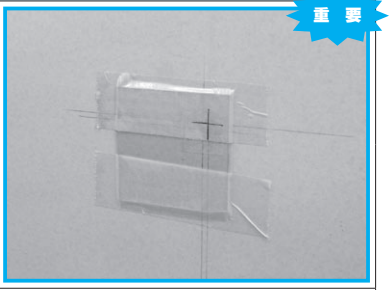
ハイドロセラ・ウォールへの手すり（可動式）取付手順 ※取付ボルトが先付けの場合も縁切り、嵩上げは必要です。

けがき



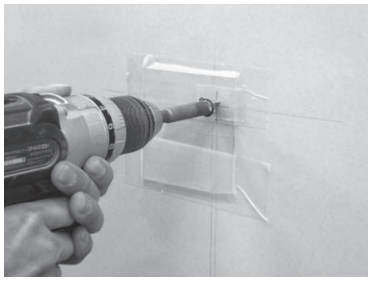
ボルト取付位置および縁切り位置をけがき、縁切りの内側に薄手の両面テープ（現場手配）を張り付ける。手すり取付プレートの表面保護フィルムははがしておく。
注意:ボルトごとに縁切りするため、けがき位置に注意する。（P.22参照）

手すり取付プレート張り付け



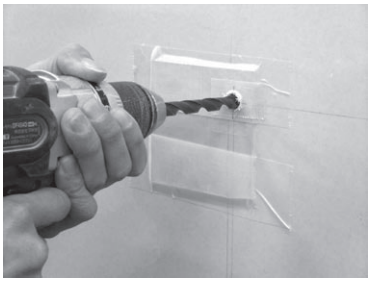
【重要】
手すり取付プレートを縁切り位置に張り付ける。さらに、プレートの固定とドリル刃のズレ防止を兼ねて養生テープを張る。
参考:プレート1枚で最大4カ所（φ40）縁切りができる。

下穴あけ（ハイドロセラ）



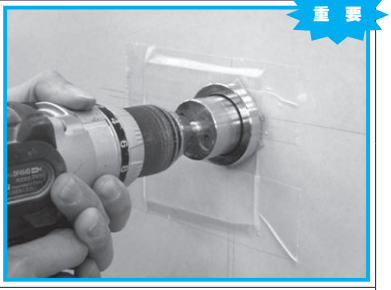
磁器タイル用ドリル刃で手すり取付プレートごとハイドロセラに下穴をあける。下穴径はボルト径+4mm。
注意:下地にはあけない。

下穴あけ（下地）



下地および裏面補強材に下穴をあける。下穴径は8.5mm。（M10ボルト固定の場合）

縁切り

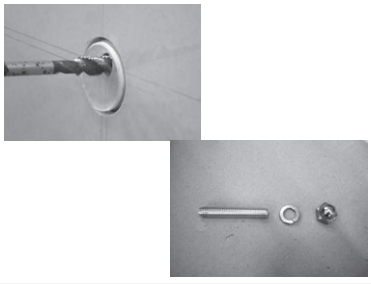


【重要】
ホールソー（※）で手すり取付プレートごとボルト穴周りを縁切りする。※径はP.22参照
注意:下地にはあけない。また、ハイドロセラははがさない。

縁切り

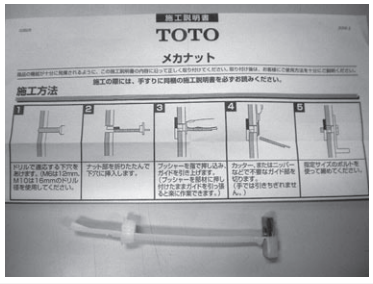
嵩上げ部分を残し、手すり取付プレートの不要部を取り除く。

タップ



【ボルト固定の場合】
下地補強材にM10×1.5のタップでねじを切る。取付ボルトがしっかり入っていくか確認する。
注意:手すりの取り付け方に応じた処理をしてください。

補足

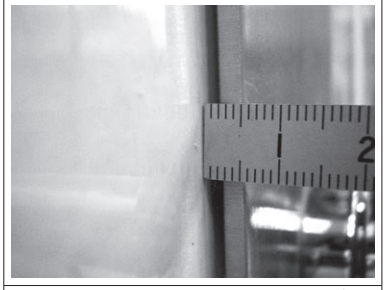


【補足】
メカナットセット使用の際はハイドロセラ・下地補強材ともに16mmの下穴をあけてください。

手すり取り付け

手すりを取り付ける。
注意:最後は手締めする。

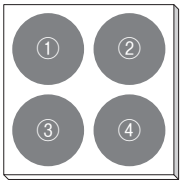
嵩上げ確認



ハイドロセラと手すり台座に約2mmの嵩上げができることを確認する。

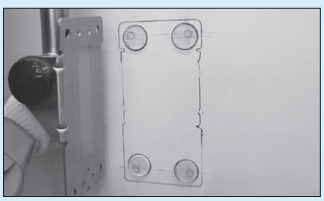
手すり取付プレートの使い方（可動式）

●縁切り径φ40の場合、手すり取付プレート1枚でボルト4カ所分使用できます。



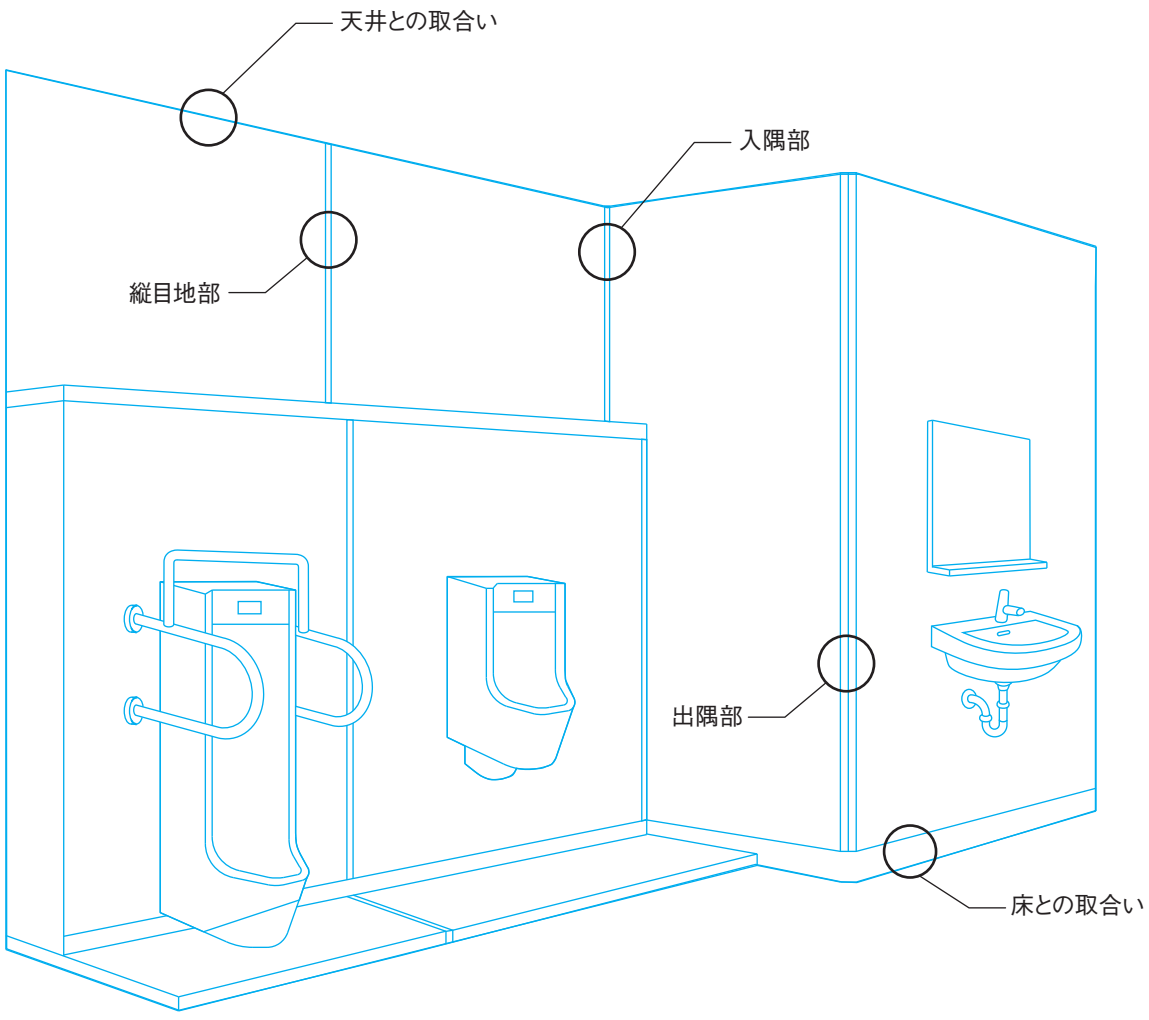
⚠注意

●必ず手すり取付金具を使用して下地補強してください。
●縁切りは手すり台座からはみ出ないように注意してください。

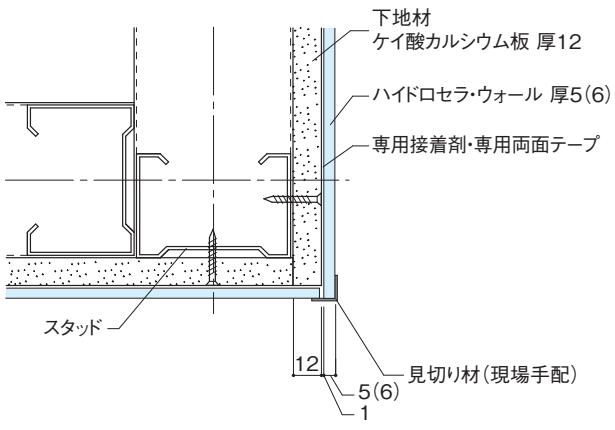


納まり例　トイレ（パブリック）

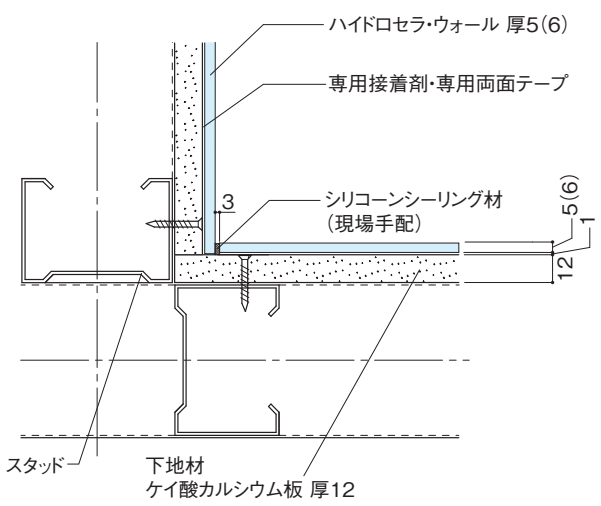
一般・トイレルーム内装



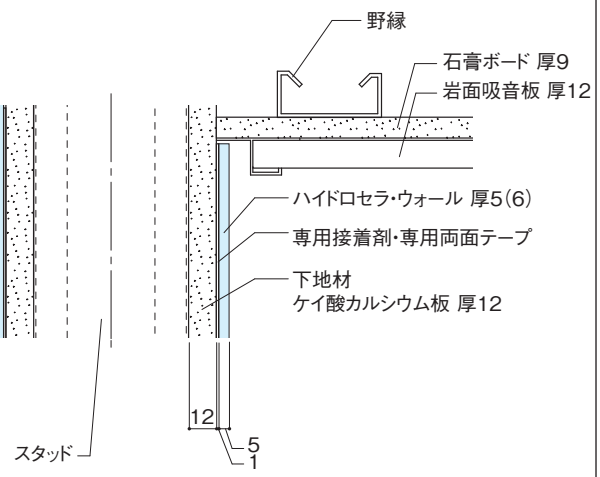
出隅部



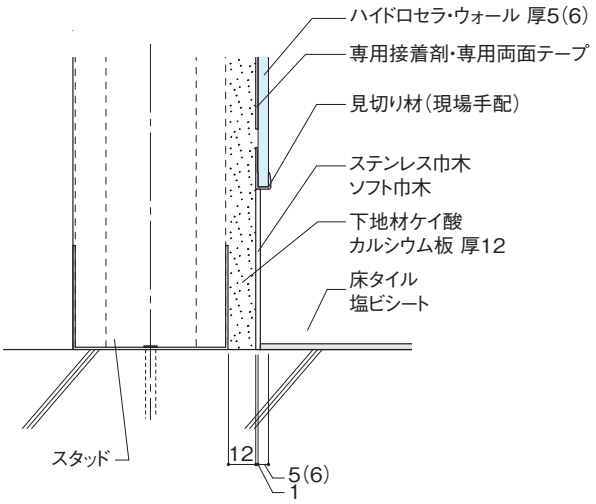
入隅部



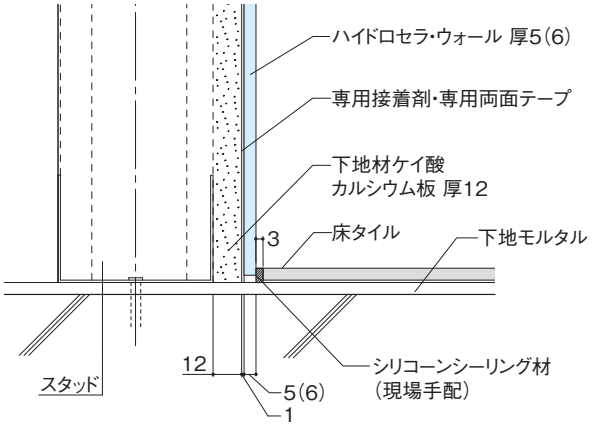
天井との取合い



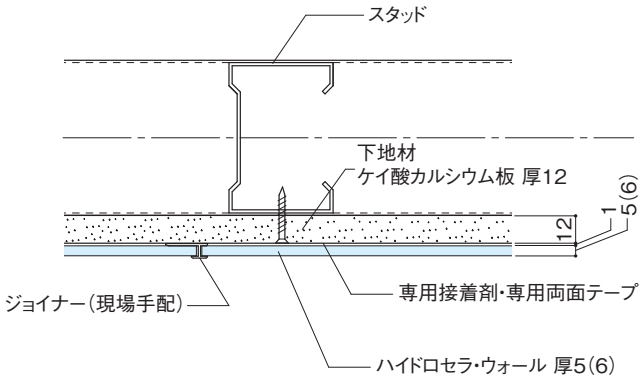
床との取合い

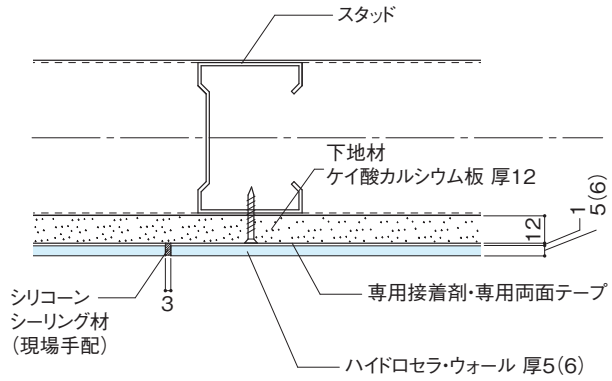


床との取合い
(ハイドロセラ・ウォールを貼りおろす場合)



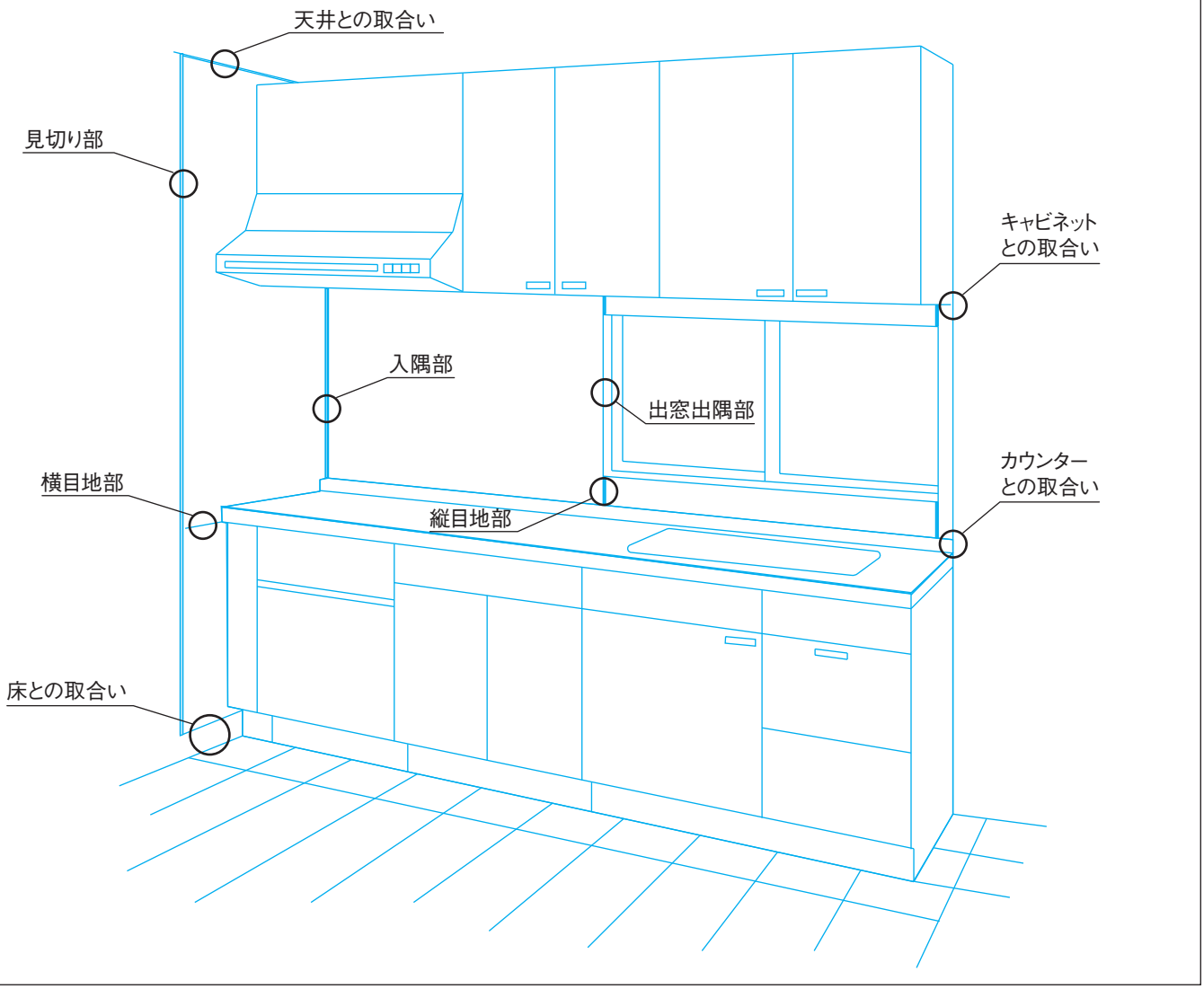
縦目地部



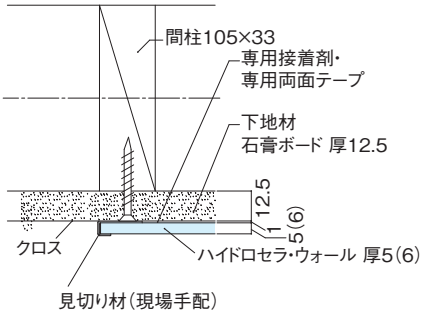


納まり例　キッチン

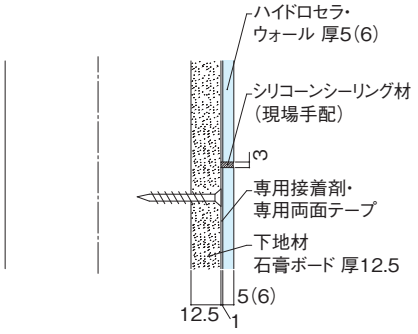
キッチン納まり図



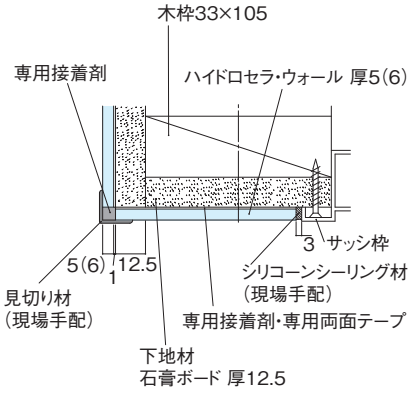
見切り部



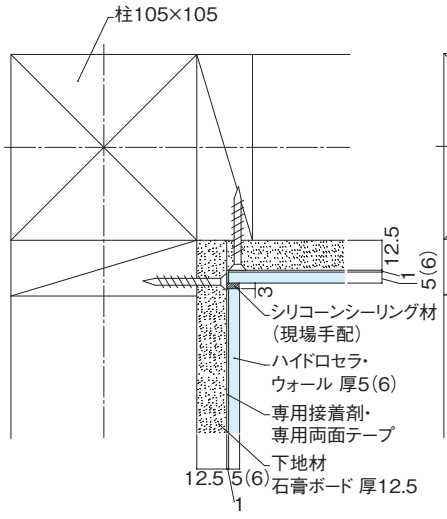
横目地部

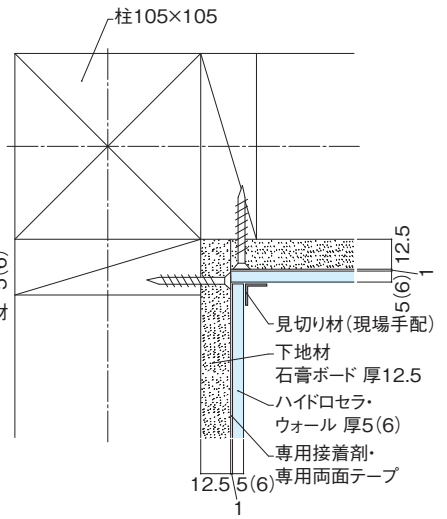


出窓出隅部

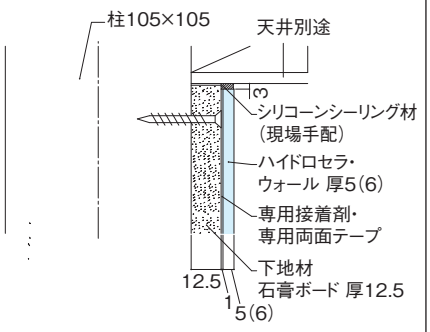


入隅部

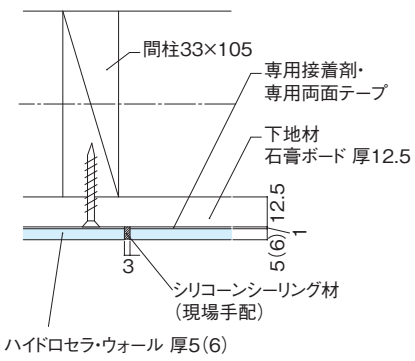


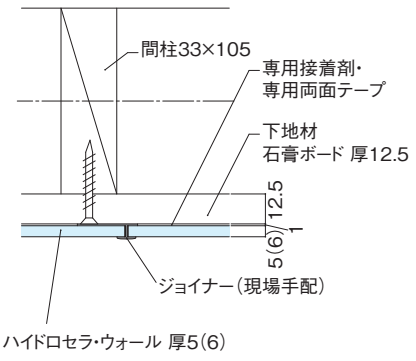


天井との取合い

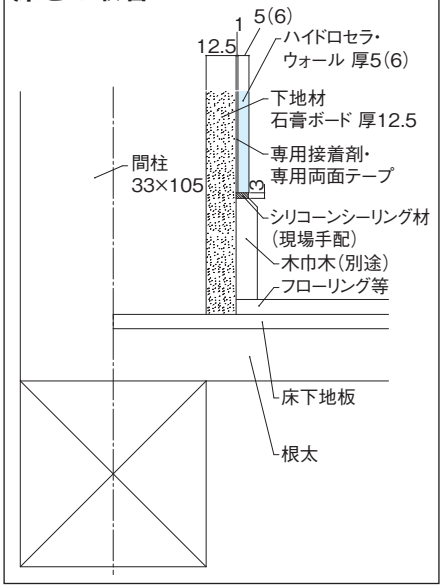


縦目地部

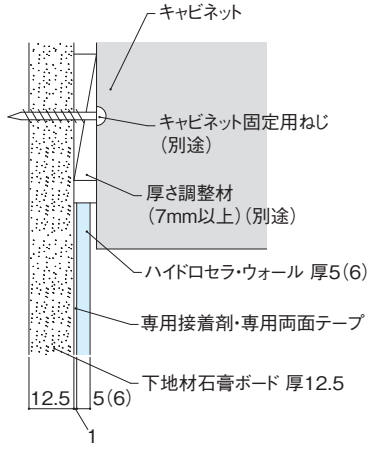




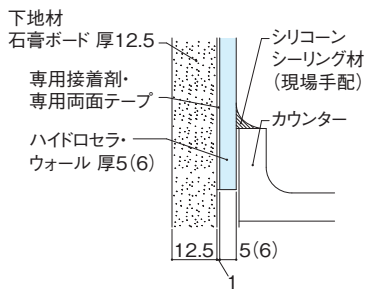
床との取合い



キャビネットとの取合い

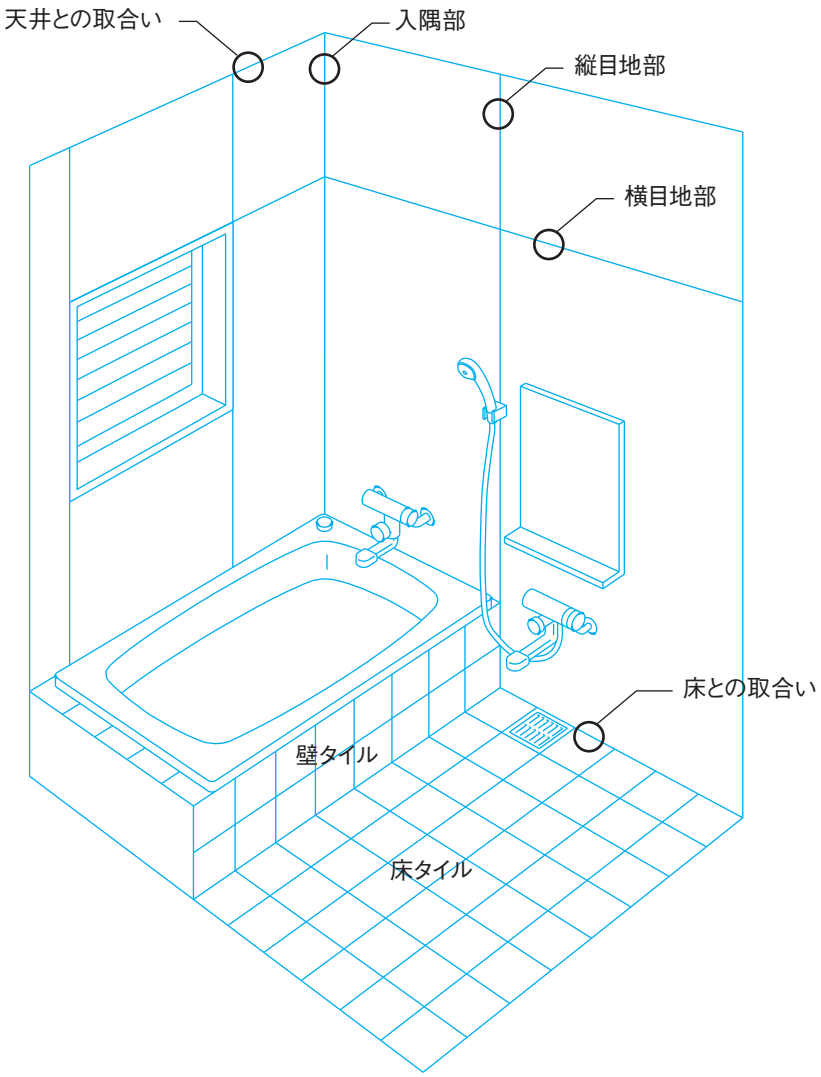


カウンターとの取合い

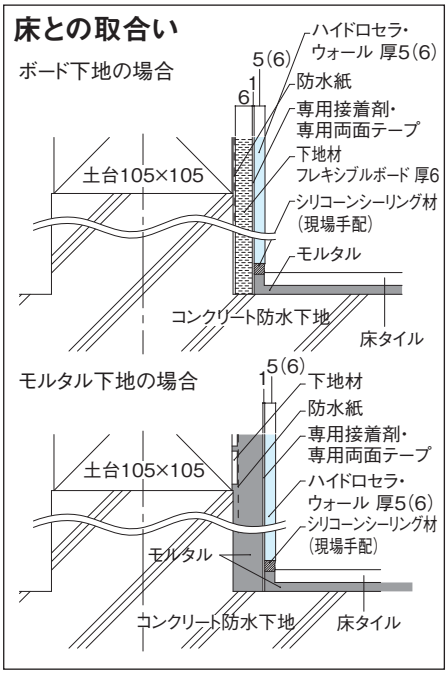


納まり例　浴室

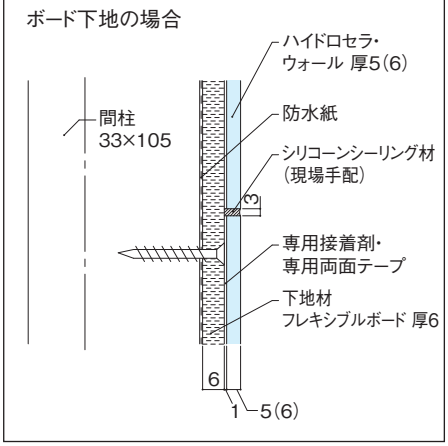
浴室の納まり図



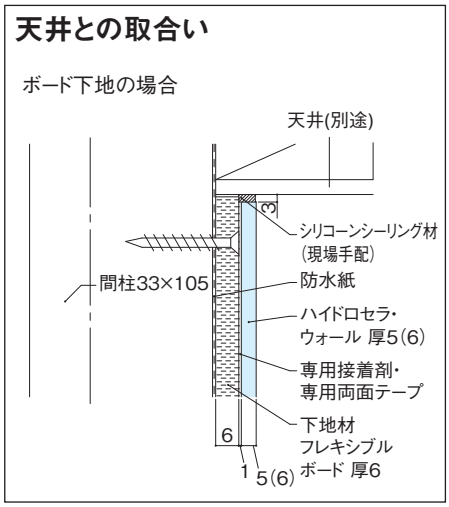
床との取合い



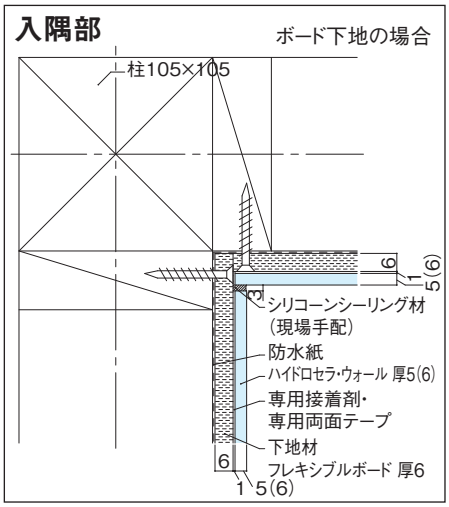
横目地部



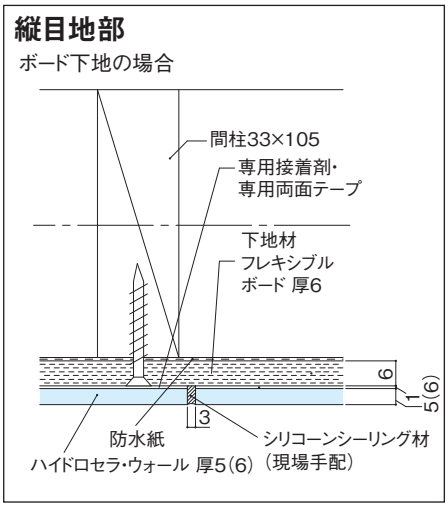
天井との取合い



入隅部

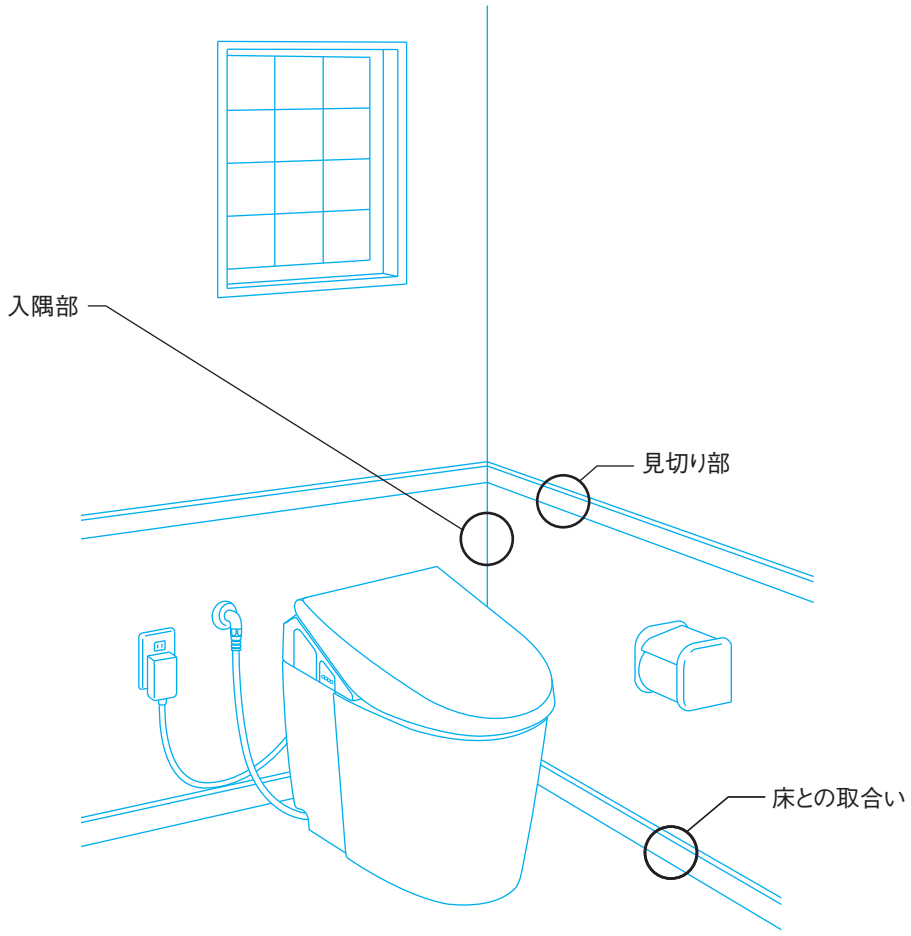


縦目地部

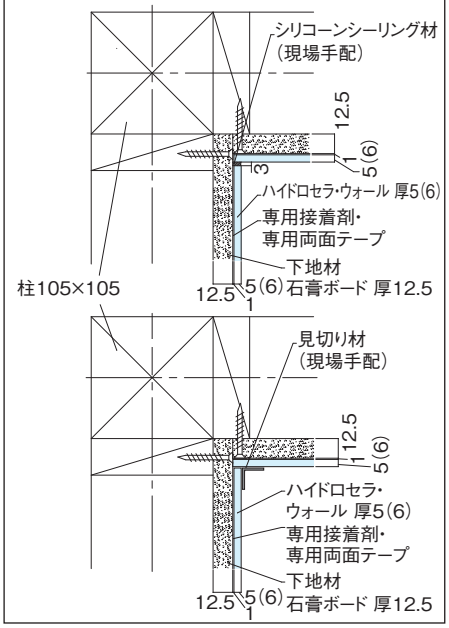


納まり例　トイレ（住宅）

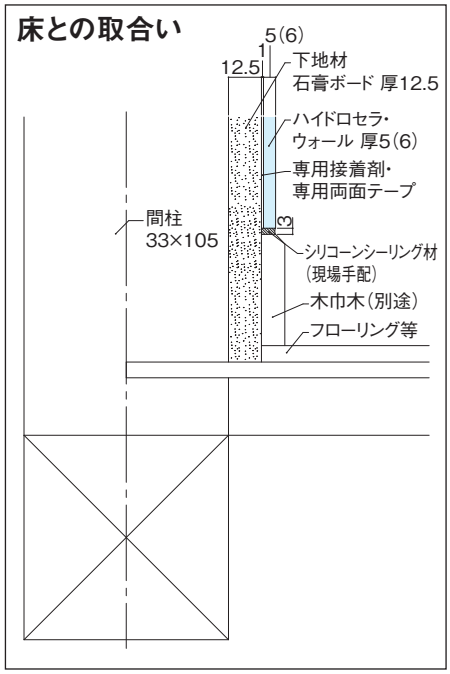
トイレの納まり図



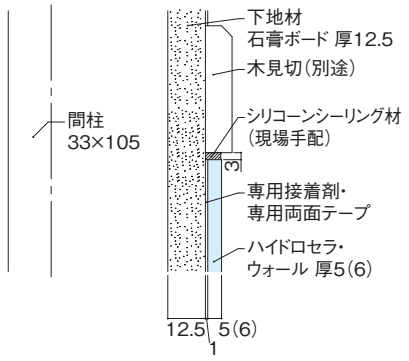
入隅部



床との取合い



見切り部



TOTO

TOTO株式会社

■建築専門家のための情報サイトCOM-ET（コメット）

仕様、施工方法、メンテナンスなどの詳しい情報やCAD（2D・3D）データを提供しております。
設計・提案の際にぜひお役立てください。

http://www.com-et.com/ TOTOホームページ　http://www.toto.co.jp/

■商品のお問い合わせは

建築・設計・販売・施工業者様へは、技術相談室をご用意しております。

受付時間：平日 9:00～18:00／土曜日 9:00～17:00（日・祝日・夏期休暇・年末年始を除く）

ナビダイヤル **0570-01-1010**（有料）　FAX **0570-01-2111**

■修理のご用命は

TOTOメンテナンス㈱修理受付センターまたは、お求めの取り扱い工事店へ

受付時間（年中無休）：8:00～19:00　訪問修理：年中無休（一部地域を除く）訪問修理時間：9:00～18:00

0120-1010-05　FAX **0120-1010-02**

インターネットでのお申し込みも承っております。
TOTOメンテナンスホームページ　http://www.tom-net.jp/

修理のお申し込みは
TOTOメンテナンス　検索

※予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

安全に関するご注意

商品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危険や損害を未然に防ぐために、次のような表示をしています。安全のために必ずお守りください。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害（家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害）のみの発生が想定される内容を示しています。

ご使用の前に「取扱説明書（ご愛用のしおり）」をよく読んで正しくお使いください。また、設置工事をされる場合は「組立設置施工説明書（工事説明書）」をよく読んで施工ください。取り扱いを誤ると、事故や故障の原因になります。

当カタログ記載事項に関するご注意

●各商品は、仕様変更、価格改定となる場合があります。●印刷物と実際の商品では、色や柄が多少異なって見える場合があります。●各商品は条件に合った施工が必要です。施工、組立、設置については販売店、または施工業者にご用命ください。●日本国内専用品です。

※当社ならびに当社グループ会社は、個人情報の保護を社会的責務と考えます。お客様からお預かりした個人情報は、関連法令および社内諸規定に基づき慎重かつ適切に取り扱います。詳細はTOTOホームページ（http://www.toto.co.jp/）をご覧ください。

2014.11(K6-1.5DNP) AXWSS1